

支援を組み立てるための基本

- ・ 強度行動障害の支援に必要な知識

本題に入る前に・・・

- 強度行動障害支援者養成研修（以下、強行研修）
改定のポイント（2020年4月～）
- 強行研修（実践研修）で学ぶこと

改定のポイント

- 継続点 1 カリキュラムを行動援護従業者養成研修と分けない
- 継続点 2 基礎・実践研修併せて24時間のプログラム
- 継続点 3 初心者でも理解できる内容（特に基礎研修）

- 変更点 1 カリキュラムの大項目ごとの時間配分※
- 変更点 2 カリキュラムの中・小項目※
- 変更点 3 ストーリー性を重視したプログラム構成

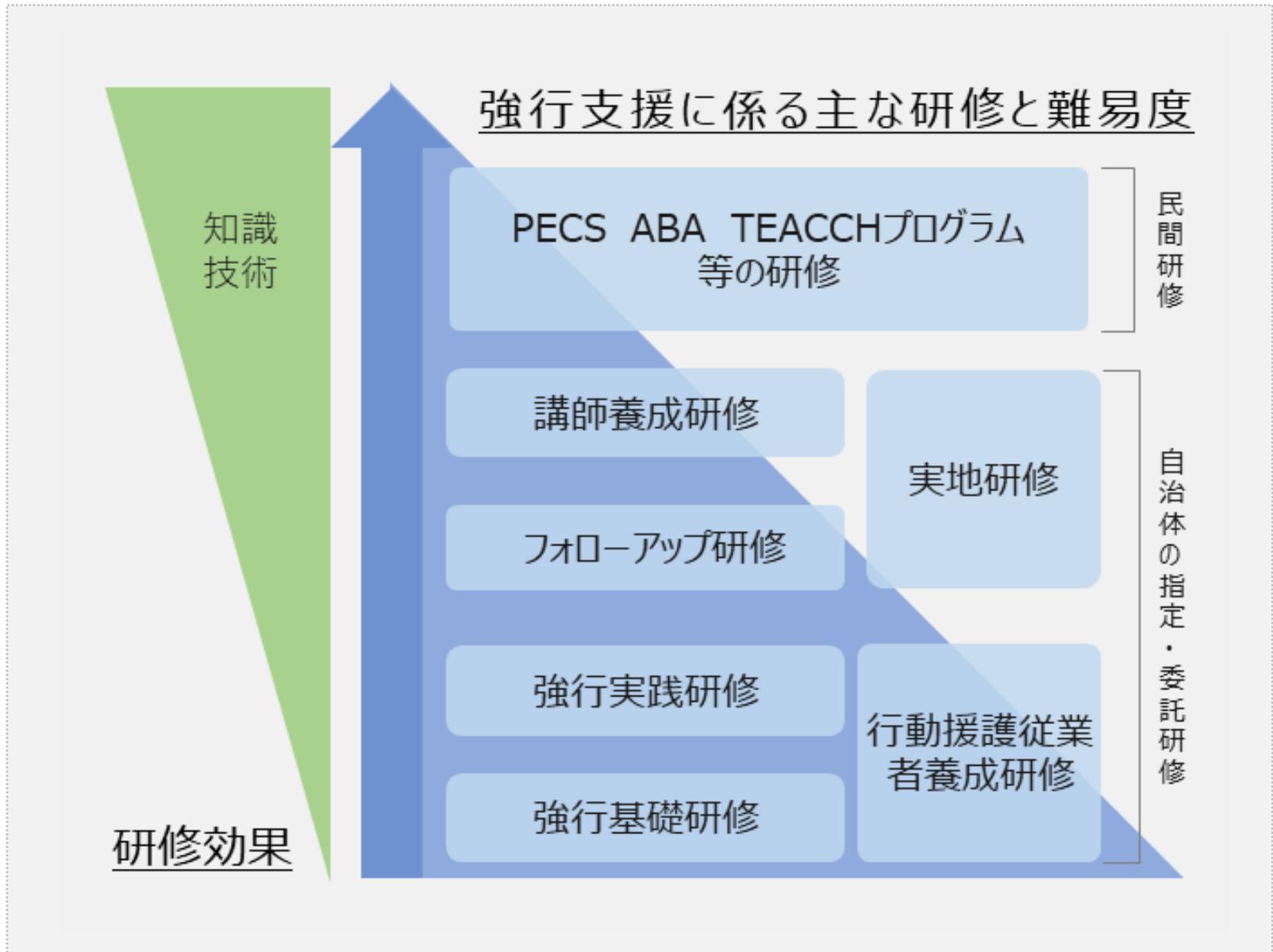


次ページスライド参照

研修のストーリー & 到達点

ストーリー	基礎研修	実践研修
Step 1	強度行動障害について基本的なことを知る	支援を組み立てるための基本的な流れの確認
Step 2	アセスメントに基づいた（情報を収集し、解決すべき課題を整理した上での）個別支援の大切さを理解する	アセスメントの具体的な方法を学ぶ
Step 3	支援の具体的な方法を知る	支援手順書の作成方法を学ぶ
Step 4	チームプレイの重要性を理解する	記録の方法と支援手順書の修正方法を学ぶ
Step 5	適切な支援を続けていくための知識を得る	組織として取り組むことの重要性を学ぶ
到達点	計画された支援の根拠を理解し、決められた手順通りに支援をすることができる。	チームの動きをイメージし、支援の手順を考え文章化する。また、支援結果に合わせ、支援及び手順の修正をすることができる。

強度行動障害が現れている人への支援スキル 修得のためのステップで見る本研修の位置づけ



この時間で学ぶこと

- 基礎研修で学んだことを振り返ります。
- 支援を組み立てるための基本的な流れを把握します。
- 実践研修の進み方と演習の構成を確認します。

この時間の流れ①

講義

 映像視聴

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的な考え方
- ・ 強度行動障害の状態
- ・ 強度行動障害が起きる理由

②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

③支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

この時間の流れ②

講義

 動画視聴

④基本的な情報収集

- ・行動を見る視点

⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

⑥チームプレイの基本

- ・チームプレイの必要性

⑦支援を組み立てるための基本

⑧実践研修の進み方と演習の構成

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的な考え方

支援とは

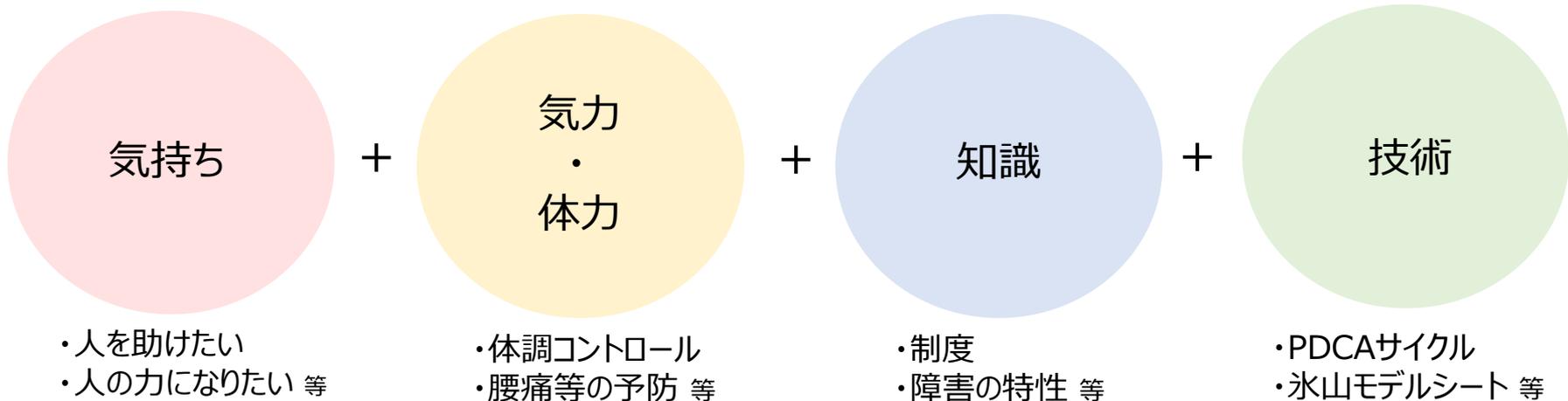
他人を支えたすけること

労力や金銭などの面で、その活動や事業を助ける意を表す



出典：三省堂大辞林第三版

支援の専門家が、支援を提供する際に必要なもの



基礎的な支援の流れ



よりよい支援の流れをつくるためのポイント



2 情報整理時、**ICF**を活用する



2 情報分析時、**冰山モデルシート**を活用する



チームで支援の手順を統一するために、**支援手順書を作成・共有**する



11項目におよぶ支援の流れは、大きく下記の4つに分けることができる。

- 1～6 = 計画 (Plan)
- 7・8 = 実践 (Do)
- 9・10 = 評価 (Check)
- 11 = 改善 (Action)

⇒これを「**PDCAサイクル**」といいます

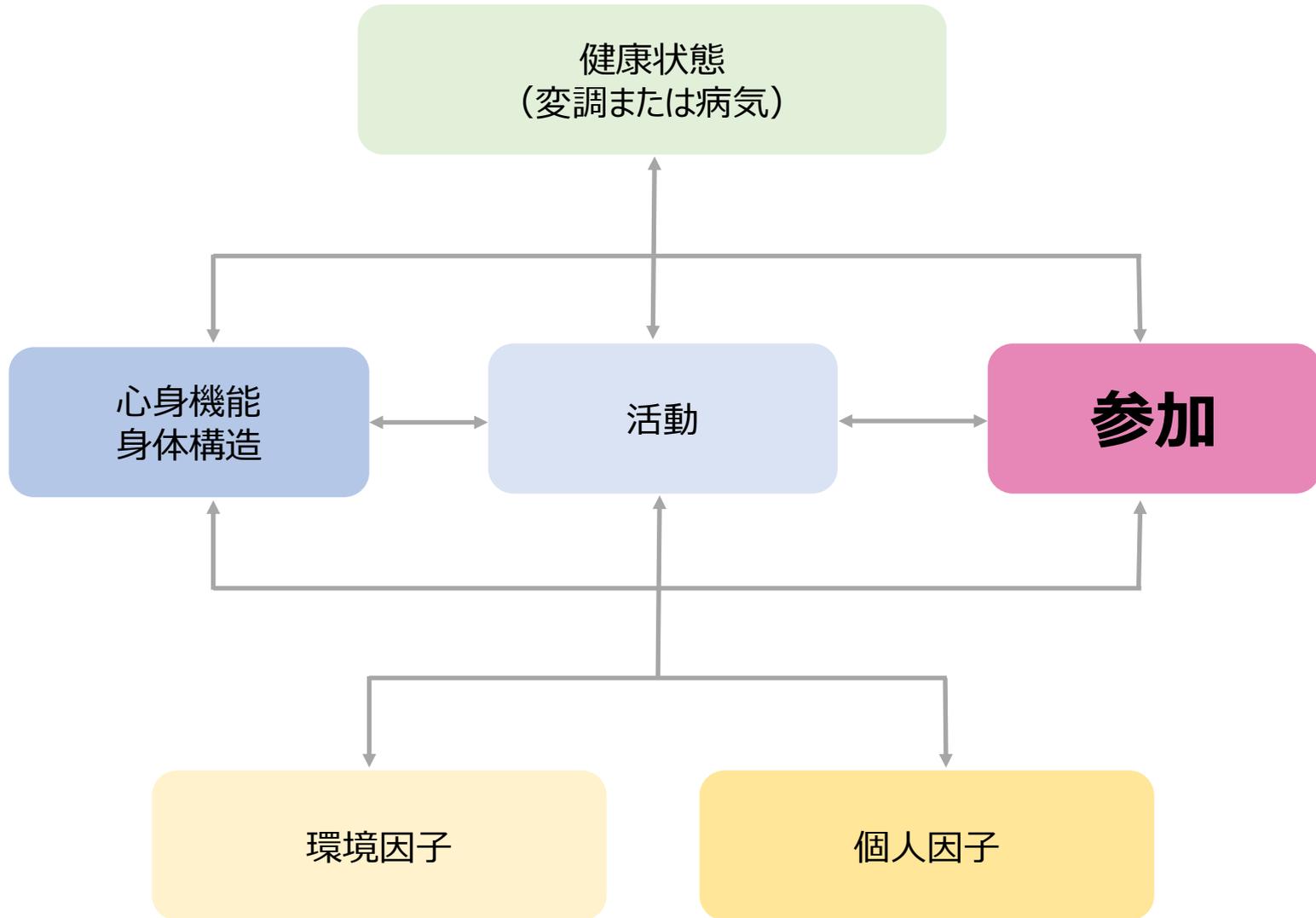
業務を継続的に改善していく手法。品質管理の国際基準であるISO9001や、ISO14001などにも考え方が採用されている。



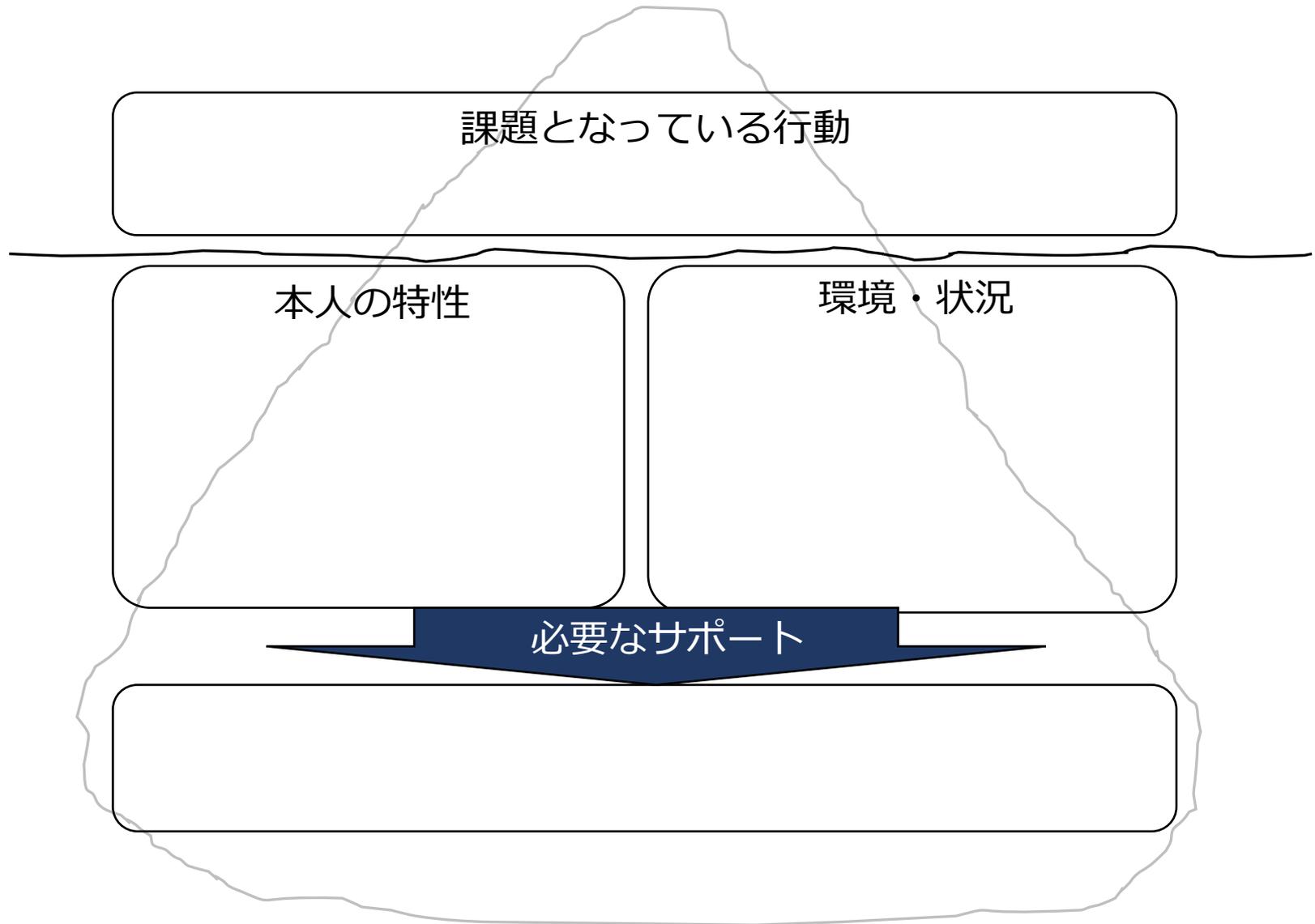
よりよい人生へと向かう

ICF（国際生活機能分類）とは

- ▶ International Classification of Functioning, Disability and Health 2001年5月 WHO総会で採択
- ▶ ■人間全体を見る ■個別性をとらえる ■サービスの効果を全体的にとらえる ものとして使われている



これが「冰山モデルシート」です



これが「支援手順書（例）」です

支援手順書/記録用紙

日付け	2000年0月×日	氏名	Tさん	記入者		支援員B	
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)			
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。					
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。					
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前に手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する					
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。(活動カードを外す) ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える *Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを1分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「1分でおしまい」と声掛け。 タイマーがなったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。					
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。					
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す) 家族にTさんの様子を伝える。					

- * スケジュール確認の手順
- ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
- ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
- ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える

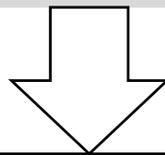
- * 本人と関わる際の注意点
- ・声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
- ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
- ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

①強度行動障害の理解

- ・強度行動障害の状態

「強度行動障害」とは

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語



- × もともとの障害
- その人の状態のこと

①強度行動障害の理解

- ・強度行動障害が起きる理由

障害からくる苦手さを持つ人たちは、困っています。

障害からくる苦手さ

先の予測をすることが難しい

見えないものの理解が難しい

話し言葉の理解が難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

話し言葉で伝えることが難しい

やり取りの量が多いと処理が難しい

少しの違いで大きな不安を感じる

聴覚の過敏や鈍麻がある

⋮



不安

緊張



不安や緊張から

逃れたい

不安や緊張を

伝えたい

不安や緊張に

気づいてほしい

でも方法がわからない



気持ちを **行動** で表す



- そのまま、障害からくる苦手さが解消されないと、さらに、激しい行動をとることがあります。



- また、適切な行動を教えてもらう機会がなかったり
- 自分の気持ちを伝えるために激しい行動を取った時、周囲がその行動を止めるために本人が望むままの対応を繰り返していると、「激しい行動をすることで自分の気持ちが伝わる」と理解し、激しい行動が定着してしまうこともあります。

このように、

- ☑ 適切な行動を教えられていない
- ☑ 周囲が誤った対応を繰り返す



行動が激しくなっていく

= 「強度行動障害の状態」

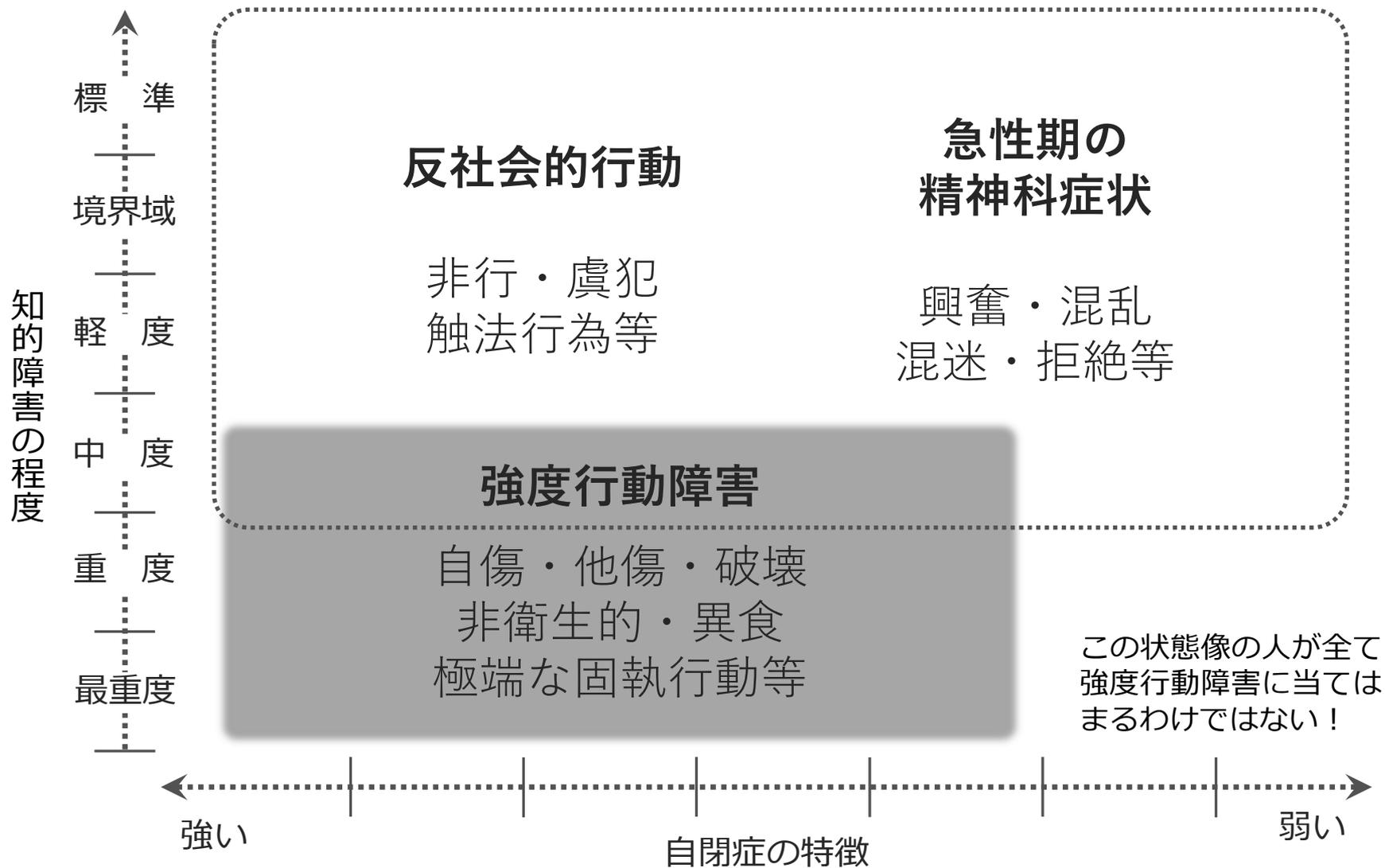
といいます。

②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

なぜ自閉症の特性を学ぶのか

強度行動障害になりやすいのは



強度行動障害と自閉症の関連性が高いと言われて
います。

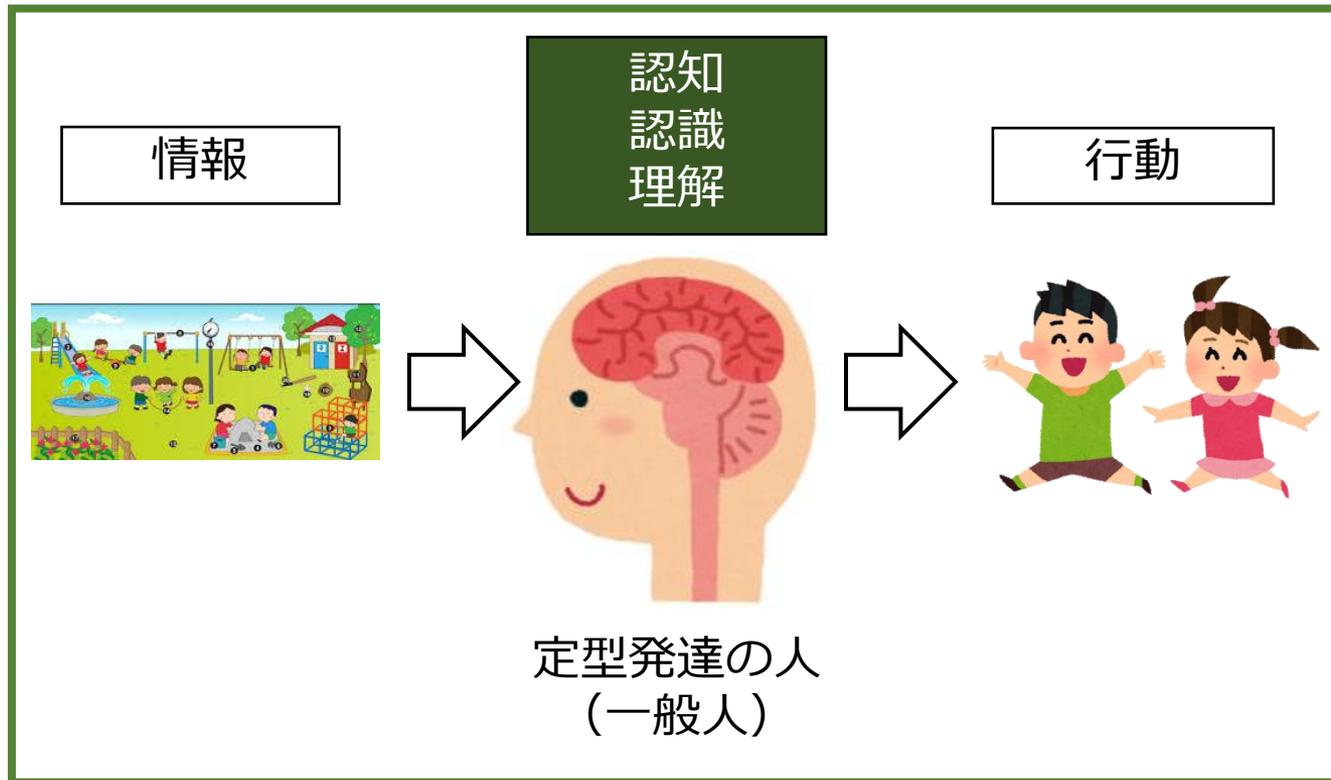
したがって、強度行動障害への支援を学ぶため
には、まず自閉症のことを知ることが大切です。

自閉症について

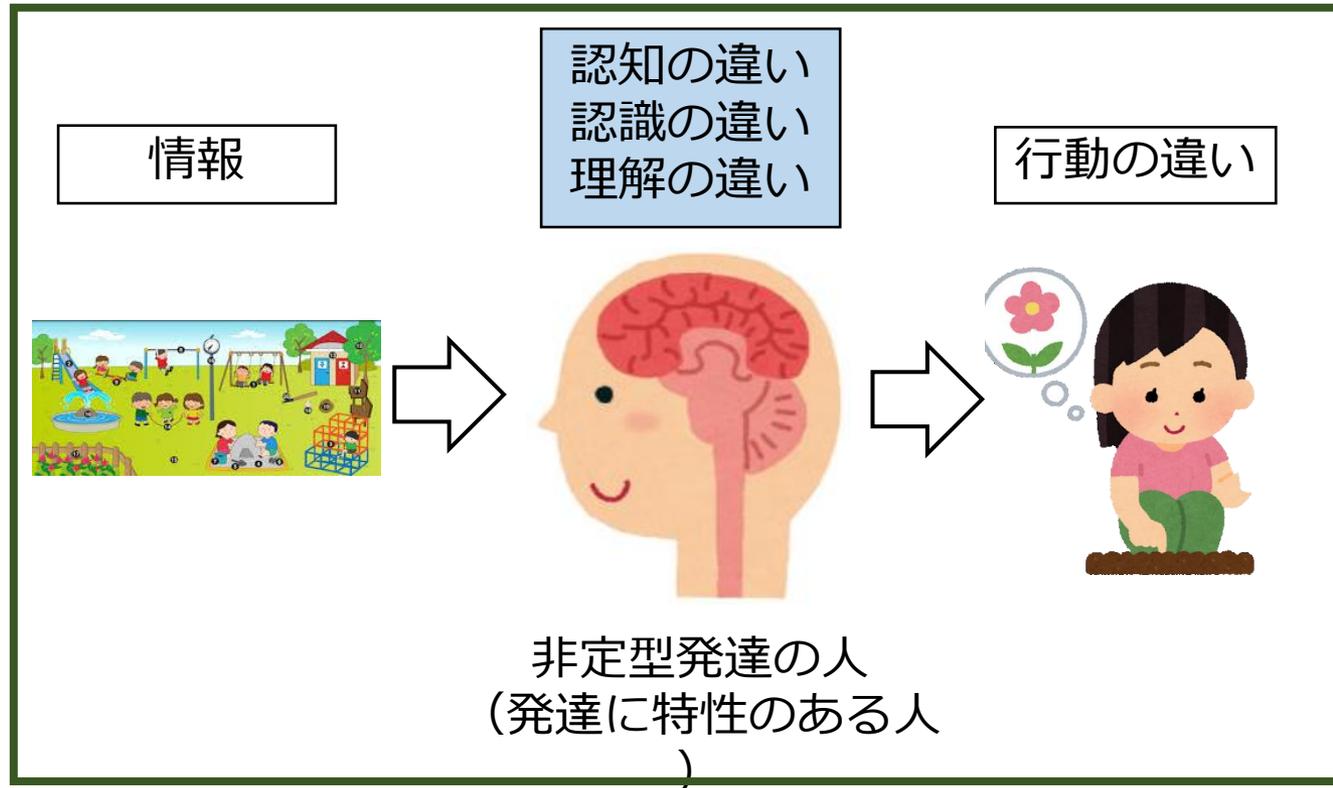
- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている。



自閉症は脳の機能的な障害



自閉症の特性を整理する

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

- 自閉症の人たちは社会では少数派です。その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。「強み」は支援に生かすもので、「弱み」は支援者が配慮するところと言えます。それゆえ、特性の把握においては「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。

得意

苦手



- 自閉症の人たちの物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

相手への関心が薄い

相手から期待されていることを理解することが難しい

相手が見ているものを見て

相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

周囲で起こっていることへの関心が薄い

周囲の様子から期待されていることを

理解することが難しい

見えないものの理解が難しい

☆ 自分がすべきことが明確であれば、
集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

話し言葉の理解が難しい

一度にたくさんのかことを理解するのが難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

話し言葉で伝えることが難しい

どのようにして伝えたらいいか分からない

誰に伝えていいか分からない

視点② コミュニケーションの特性

【やり取りが難しい】

場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
やり取りの量が多いと処理が難しい

☆ 話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

段取りを適切に組むことが難しい

なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい

今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

先の予測をすることが難しい

臨機応変に判断することが難しい

自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

興味・関心が狭くて強い

細部が気になり違いに敏感

少しの違いで大きな不安を感じる

☆ 目の前に存在する視覚情報があると
わかりやすさが増す。

☆ 自分が興味・関心のある対象への思い
が強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

聴覚の過敏や鈍麻がある

視覚の過敏や鈍麻がある

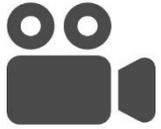
触覚の過敏や鈍麻がある

臭覚の過敏や鈍麻がある

味覚の過敏や鈍麻がある

前庭覚の特有の感覚がある

☆ 感覚に関する反応が、心身の状況や調子の
バロメーターとなることも多い。



ここで動画を見ましょう

学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、

得意なことを把握することはとても大切です

（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

③ 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

目で見えてわかる支援が基本

目で見えてわかる支援をするのはなぜか？

- 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
- 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
- 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

目で見えてわかる支援をするために

- わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
 - = その人に合わせた支援
 - = 合理的配慮

支援のポイントは
どこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

④ 基本的な情報収集

- ・ 行動を見る視点

「行動チェックシート」

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人の関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ク: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えようと混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

「特性を把握する」という視点

- 個別の「障害特性」に対して周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての不応行動が生じることがあります
- 本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
- 個別の困り感に対する合理的配慮が支援の基本となります
- その場合の合理的配慮は、目で見てわかる支援のアイデアを活用することがスタンダードとなっています

行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- 客観的に観察することで、行動の背景にはさまざまな苦手さがあることに気がつくことができます。

まとめ

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

- 本人の行動をヒントに
- 特性に気づき
- 適切な支援を組み立てていくことで

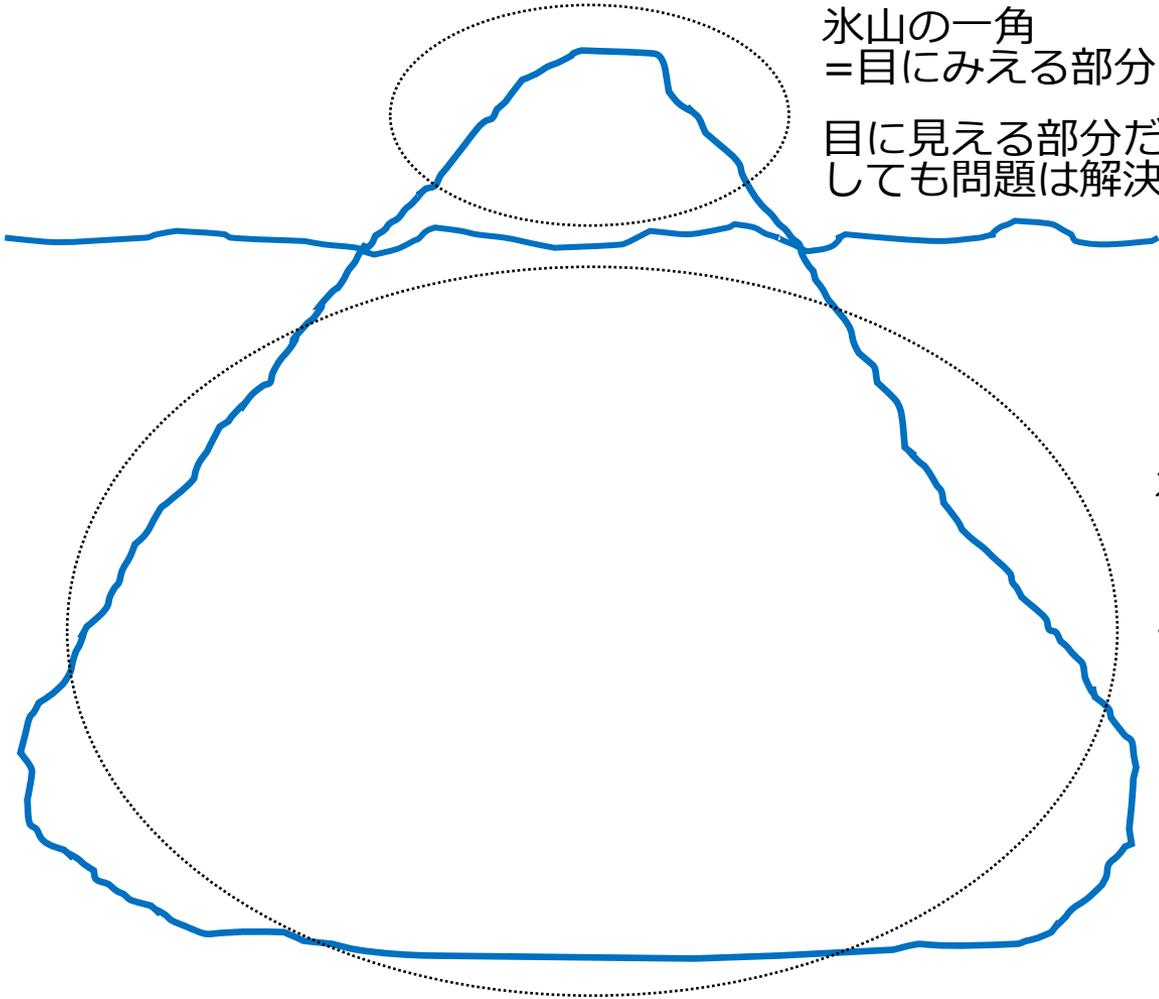


支援も本人の活動も成功しやすくなります

⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

行動の背景を知るための「冰山モデル」



The diagram illustrates the iceberg model of behavior. A blue line represents the surface of an iceberg, with a small peak circled by a dotted line. A much larger, irregular shape below the water line is also circled by a dotted line. A horizontal line represents the water surface.

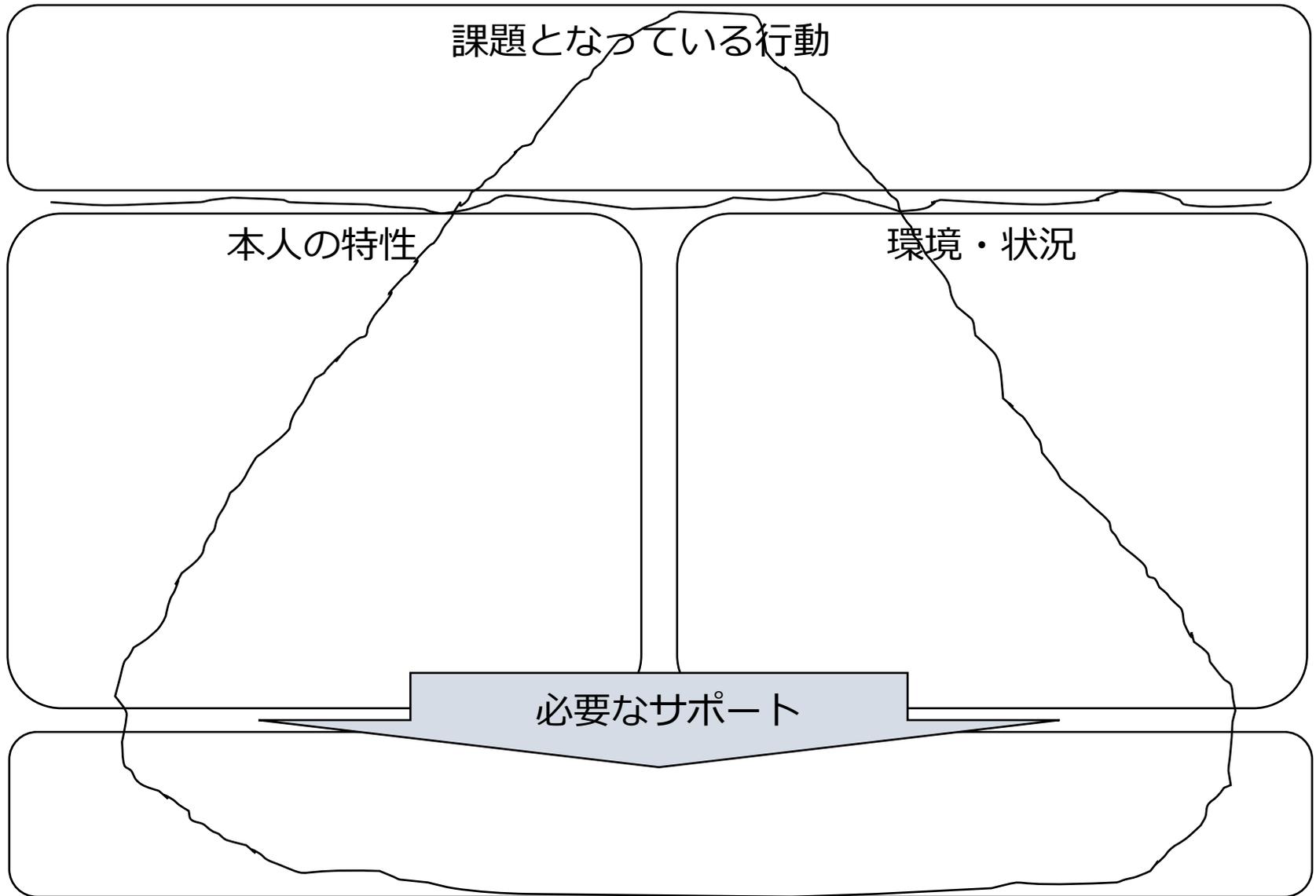
氷山の一角
=目にみえる部分

目に見える部分だけに対応を
しても問題は解決しない。

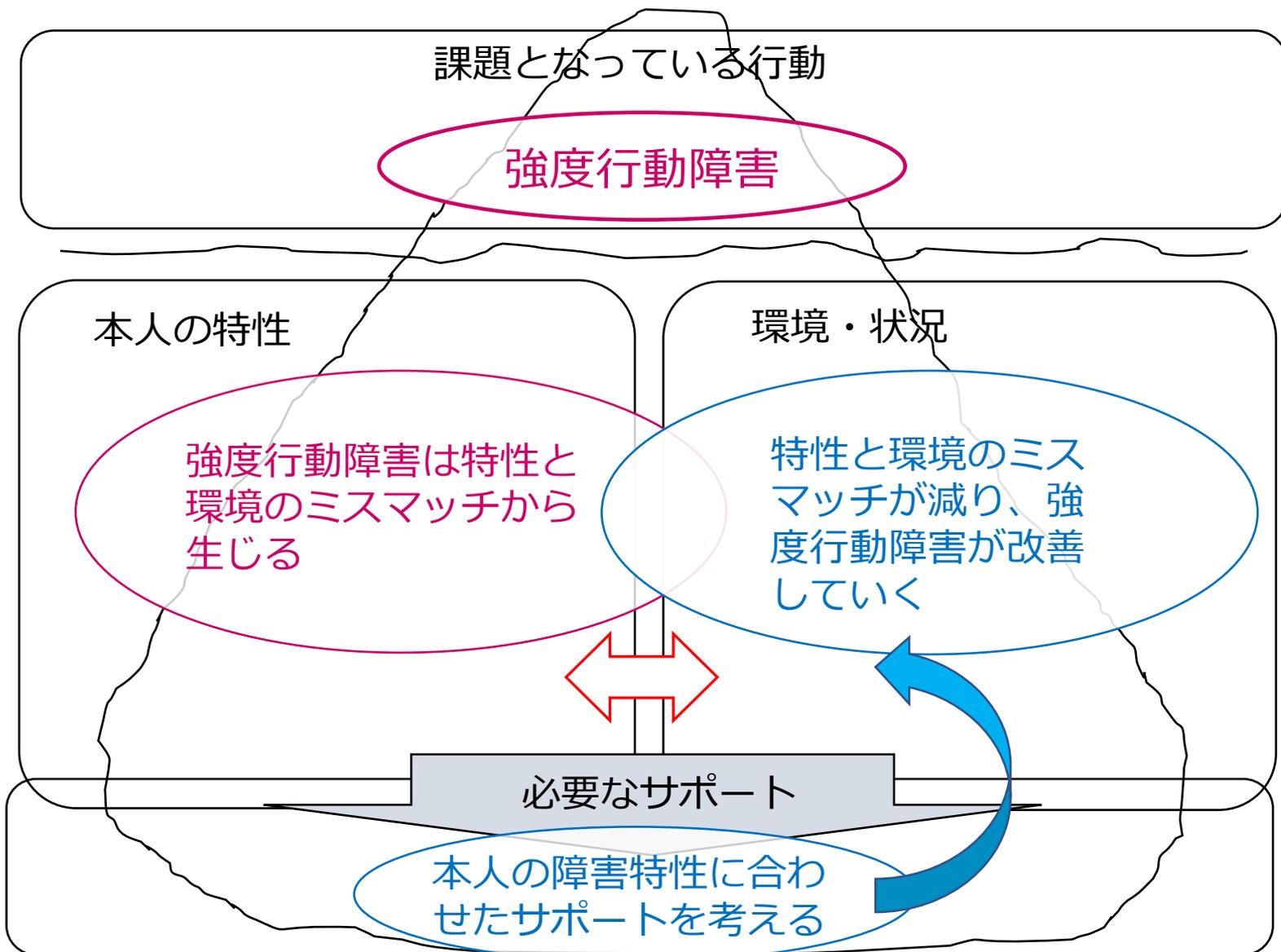
水面下に大きな塊がある
=目にみえない部分

目に見えない部分を理解して
アプローチすることで、表面
に出ている問題が小さくなる。

冰山モデルシート



氷山モデルシート



氷山モデルシートと補足シートの関係

行動チェックシート	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団の関心に敏感か 例: 人の関わり方一方向きが多い 例: 相手の気持ちに敏感な行動が多い		
	状況の理解が深い 例: 周囲の状況に対して興味を示さない 例: 会議や会議、社会のルールに適切な行動をする		
コミュニケーションスキル	理解が深い 例: 言葉で伝えられたことと違うことをする 例: 相手の言葉をそのまま繰り返す(エコー)		
	発音が正しい 例: 行動や仕事などで自分の気持ちを見せる 例: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない 例: 言葉は自分の気持ちや感情を伝えることができない		
想像力	物の一部に対する強い興味 例: 特定の物にだけ関心がある 例: 自分が関心のある物にのみ関心がある 例: 物に強い興味がある、物に強い関心がある		
	想像力が強い 例: 想像力が強い 例: 想像力が強い 例: 想像力が強い		
感覚	感覚が鋭敏か 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に敏感である 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に敏感である 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に敏感である		
	感覚が鈍感か 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に鈍感である 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に鈍感である 例: 特定の音や匂い、特定の味や触覚に鈍感である		

特性確認シート	課題となっている行動(本人が困っている行動)『』	背景となる特性	支援のアイデア
社会性	1) 相手の関心がない	3) 相手の関心がない	A) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	2) 相手の関心がない	4) 相手の関心がない	B) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	3) 相手の関心がない	5) 相手の関心がない	C) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	4) 相手の関心がない	6) 相手の関心がない	D) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	5) 相手の関心がない	7) 相手の関心がない	E) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	6) 相手の関心がない	8) 相手の関心がない	F) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
コミュニケーション	1) 理解が深い	7) 相手の関心がない	G) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	2) 発音が正しい	8) 相手の関心がない	H) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	3) 理解が深い	9) 相手の関心がない	I) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	4) 発音が正しい	10) 相手の関心がない	J) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	5) 理解が深い	11) 相手の関心がない	K) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	6) 発音が正しい	12) 相手の関心がない	L) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
想像力	1) 自分ですべてをこなす	13) 相手の関心がない	M) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	2) 変化への対応が弱い	14) 相手の関心がない	N) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	3) 物の一部に対する強い興味	15) 相手の関心がない	O) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	4) 想像力が強い	16) 相手の関心がない	P) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	5) 想像力が強い	17) 相手の関心がない	Q) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	6) 想像力が強い	18) 相手の関心がない	R) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
感覚	1) 感覚が鋭敏か	19) 相手の関心がない	S) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	2) 感覚が鈍感か	20) 相手の関心がない	T) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	3) 感覚が鋭敏か	21) 相手の関心がない	U) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	4) 感覚が鈍感か	22) 相手の関心がない	V) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	5) 感覚が鋭敏か	23) 相手の関心がない	W) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)
	6) 感覚が鈍感か	24) 相手の関心がない	X) 関心を持ってもらう、関心を持ってもらう、関心を持ってもらう(見守りの視点・やりやりの視点)

環境確認シート	項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	人	指示は明確に出ていますか(ことば・指差し・実物・絵に書いて等) 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をする人の立ち位置は適切ですか その他	
	物	物と距離は適切ですか 見えるように物が見えやすいですか 物の量で気づくことはありますか その他	
場所	場所	例をすべき場所なのか見ればわかるようになっていませんか 同じ場所で複数の目的の活動はしていますか 整理整頓はできていますか 気が配りやすい環境になっていませんか その他	
	状況	本人の体調はいいですか その活動の目的に本人の気持ちはあっていますか その活動の内容に本人の気持ちはあっていますか その活動の目的(どうなるのか、どうなるのか)は理解できていますか その他	
音	音	その場所にはどんな音がしていますか その中に本人が苦手なものがありますか その他	
	気温	その場所の気温は快適ですか(ある程度暖かすぎない・寒すぎない等) その気温は本人にとって快適なものでしょうか その他	
湿度	湿度	その場所の湿度は快適ですか(ある程度湿っていない・乾燥していませんか) その湿度は本人にとって快適なものでしょうか その他	
	臭い	その場所にはどんな臭いがありますか その中に本人が苦手なものがありますか その他	
その他	その他	その他本人が不安定になる要因になるか見られないもの その他	
	その他	その他	

強み(ストレングス)確認シート	本人の強み(ストレングス)	活かせるような場面や状況
強み	わかること、できること 例) なにかに詳しい、やがてわかるようになる、得意な分野がある	
	好きなこと(遊び、通い先、キャラクターなど) 例) ハンモックで寝る、○○のキャラクター、ヒッチはまる、おもしろい	
強み	得意なこと(これは強みではない) 見方を覚えれば得意になれること 例) 目標がわかれば頑張ることができる、言葉は苦手な分野でも同じこと	
	その他	

行動チェックシート

特性確認シート

環境確認シート

強み確認シート

支援のアイデア

氷山モデルシートと 補足シートの関係

行動チェックシート

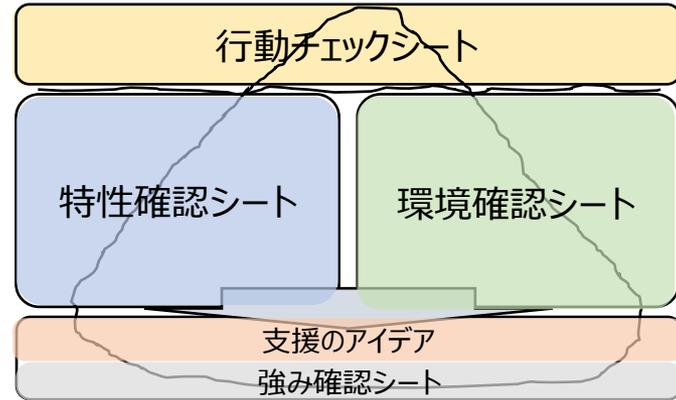
項目	内容	達成状況	担当者
1. 目標設定の明確化	目標設定が明確か 1. 本人が目標設定の重要性を理解しているか 2. 目標設定がSMART原則に基づいているか 3. 目標設定が達成可能なものであるか		
2. 計画立案の徹底	計画立案が徹底しているか 1. 目標達成のための具体的な計画が立案されているか 2. 計画立案が達成可能なものであるか 3. 計画立案が達成可能なものであるか		
3. 実行力の向上	実行力が向上しているか 1. 目標達成のための具体的な行動が実行されているか 2. 実行力が達成可能なものであるか 3. 実行力が達成可能なものであるか		
4. 振り返りの徹底	振り返りが徹底しているか 1. 目標達成のための振り返りが実施されているか 2. 振り返りが達成可能なものであるか 3. 振り返りが達成可能なものであるか		

行動チェック シート

特性確認シート

項目	内容	達成状況	担当者
1. 本人の理解	本人が理解しているか 1. 本人が理解の重要性を理解しているか 2. 本人が理解の重要性を理解しているか		
2. 本人の理解	本人が理解しているか 1. 本人が理解の重要性を理解しているか 2. 本人が理解の重要性を理解しているか		
3. 本人の理解	本人が理解しているか 1. 本人が理解の重要性を理解しているか 2. 本人が理解の重要性を理解しているか		
4. 本人の理解	本人が理解しているか 1. 本人が理解の重要性を理解しているか 2. 本人が理解の重要性を理解しているか		

特性 確認 シート



強み（ストロング）確認シート

項目	内容	達成状況	担当者
1. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
2. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
3. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
4. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		

環境確認 シート

強み（ストロング）確認シート

項目	内容	達成状況	担当者
1. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
2. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
3. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		
4. 強みの確認	強みの確認が徹底しているか 1. 強みの確認の重要性を理解しているか 2. 強みの確認の重要性を理解しているか		

強み確認 シート

氷山モデルシートが完成しました

課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

人：支援者はことばで指示を出している
物：水道が見えやすい場所へ出かけている
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた
状況：どうなったら終わりかがわかりにくい
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人にわかりやすく予定を伝える

(活かせそうな強み→活かせそうな場面)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか

まとめ

- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し課題となっている要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

⑥ チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

チームで支援する必要性

事業所の中では、
複数の職員が本人に関わります。

グループホーム



田中さん

世話人Aさん

世話人Bさん

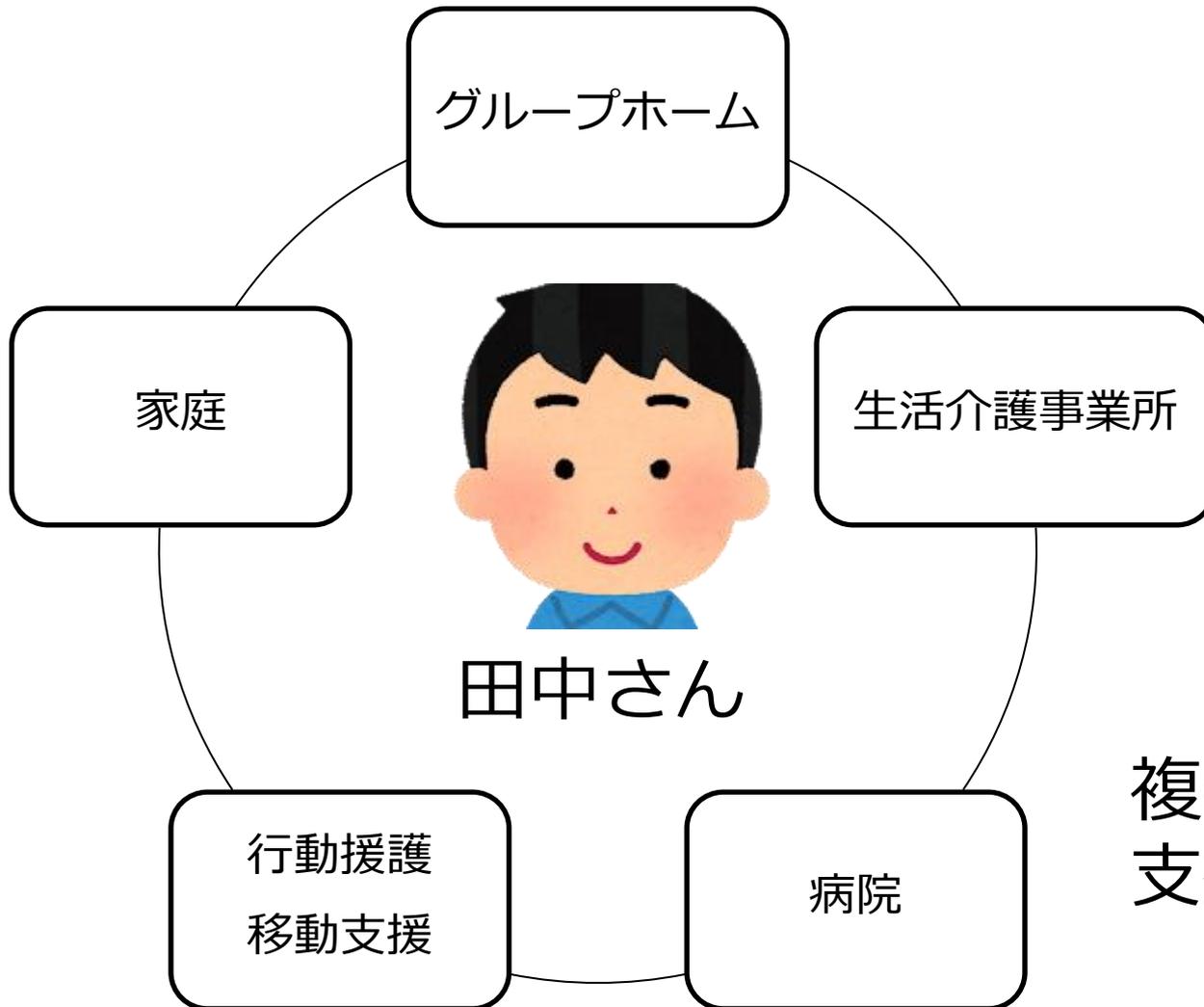
グループホーム
管理者

世話人Cさん

複数の支援者が関わる

本人の現在の生活は、
さまざまな関係者で支えられています。

田中さんの生活



複数の事業所や
支援機関が関わる

本人の支援は、

現在の関係者だけでなく、過去・現在・
未来の関係者もつながっています。

田中さんのライフステージ



乳幼児期から成人期まで、様々なライフステージがありそれぞれに事業所や支援者が関わる

一日で考えてみると、
様々な生活場面で成り立っている。

- 暮らしの場面（家庭やグループホームなど）
- 日中活動の場面（保育園や学校、福祉事業所など）
- 外出の場面（家族や行動援護など）

→それぞれの場面で関わる関係者がちがう。

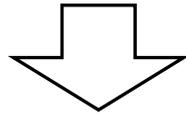
- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

関係者が必要な支援や特性を共有することが重要

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、本人を支えるチームのメンバーとして、本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

統一した支援をするために

チームにおける情報共有や連携の方法

- 日ごろからお互いに頻繁なやり取りをする
- 個別の支援会議（ケース会議）を開催
- サービス等利用計画
- 個別支援計画
- 支援手順書

サービス等利用計画・
個別支援計画・支援手順書

本人ニーズに基づく支援計画

「本人ニーズ」

夢や目標、支援してほしいこと、困っていること

- ・ コミュニケーションの苦手さを補う支援
- ・ 困りごとの背景にある障害特性や環境要因を知る
- ・ 自己決定のための本人にあった情報提供

本人ニーズに基づく支援計画を考えるためには、
特性の理解とアセスメントの視点が欠かせない

サービス等利用計画



本人の望む生活に対し、支援機関がそれぞれどのような役割を果たしチームで支えていくことを示したものの。

本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム



日中活動や就労の支援

全体の計画



相談支援

個別支援計画

サービス等利用計画で示された役割を基に、支援機関ではどのような目標をもち、何に配慮して支援をするのか、具体的な目標と支援内容を記入した計画

本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム

個別支援計画



日中活動や就労の支援

個別支援計画

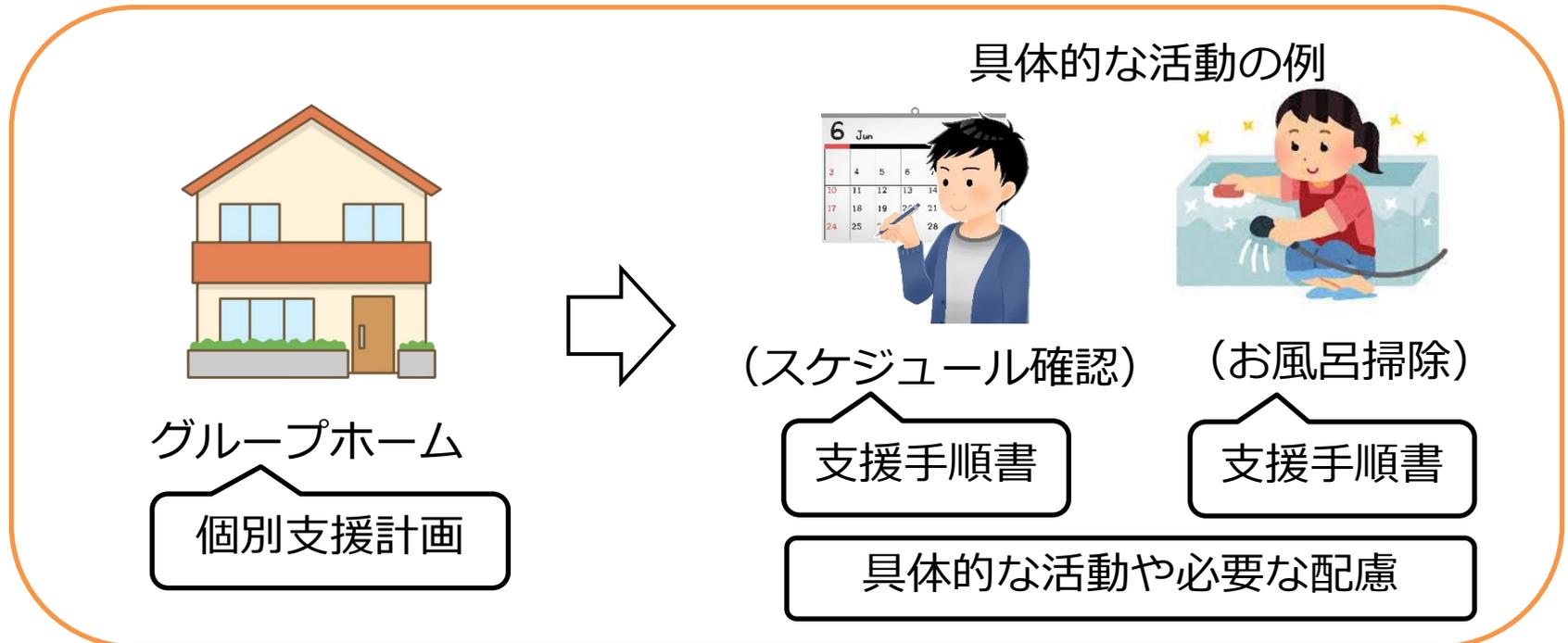
全体の計画



相談支援

支援手順書

個別支援計画の内容から、具体的な活動とそのスケジュール・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



「支援手順書」の例1（文字）

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- ○○さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

「支援手順書」の例2 (文字)

(● ● ●) 支援手順書

時間	活動	サービス手順		メモ
		本人の行動	支援者	
16:00	おやつ	スタッフルームにて、おやつ、飲み物をもらう	カード提示により、本人におやつ、飲み物を渡す	
		中庭を3~5周歩く	時間によって、回数提示を変える(1周約5~6分)	
16:30	散歩	三段BOXにある作業を上から行う	時間によって量を調節する	
17:00	部屋で作業	食堂に移動	スムーズに移動できない場合はカード提示する	
17:30	夕食	歯磨きを行う	仕上げ磨きを行う	
18:00	歯磨き	入浴準備(タオル、シャンプー、	常同行動が見られる場合は、~	
18:30	入浴			

【緊急時のとき】

【気をつけておいてほしいこと】

・常同行動により、一つ一つの活動に参加するまでの時間が多大になることが多くみられている。また、他の利用者にこだわり、それが原因でトラブルになることも多く、そうなったら、他の~利用者を一時的にその場から離れてもらうなど、距離を置いて20分ほど様子を見る。

「支援手順書」の例3 (写真)

Kさん 支援手順書

起床時対応 (当直明け)



当直明け
職員が準備
6-30



押し入れ中の作業題材をテーブル横



- ① 布団干し
- ② トイレ
- ③ 着替え
- ④ ひげそり
- ⑤ 掃除
- ⑥ 新聞 (時間がなければ無し)
- ⑦ ごはん
- ⑧ 歯みがき
- ⑨ 部屋で作業
- ⑩ 朝の会



声かけは
シンプルに。

日課の説明

職員がカードを指さしながら、
本人に読んでもらう
(活動内容の説明は要りません)



本人が一番上のカ
ードを取り、カ
ード入れに入れる

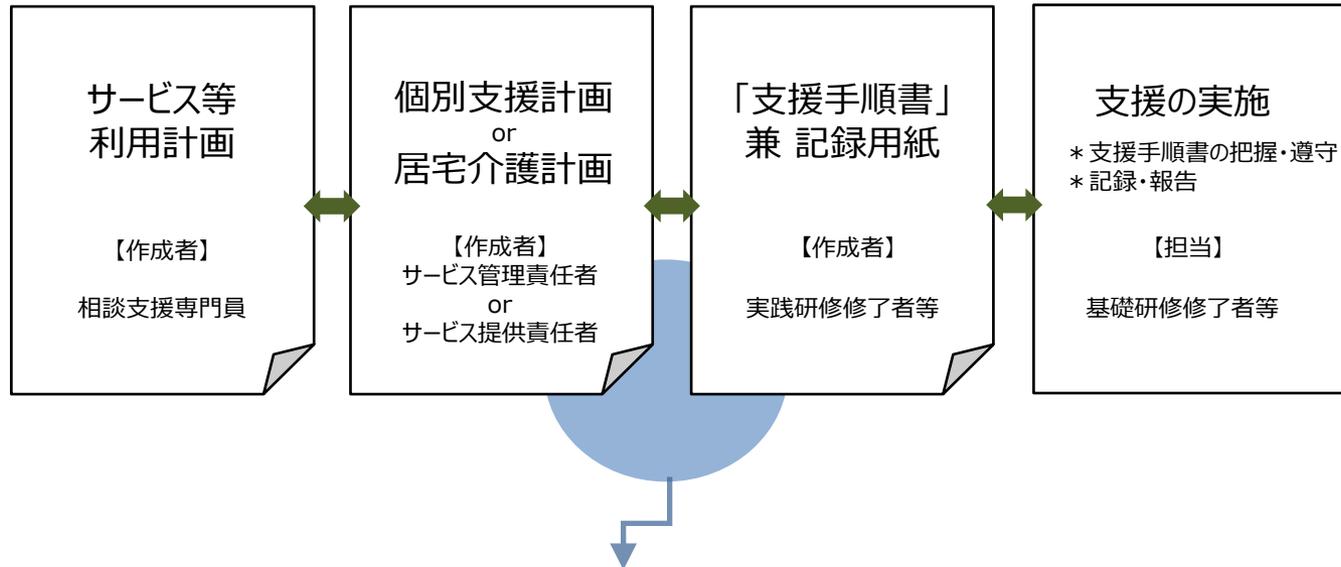
自分でやってもら
うことが大切

※ 別途記録用紙あり

現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援

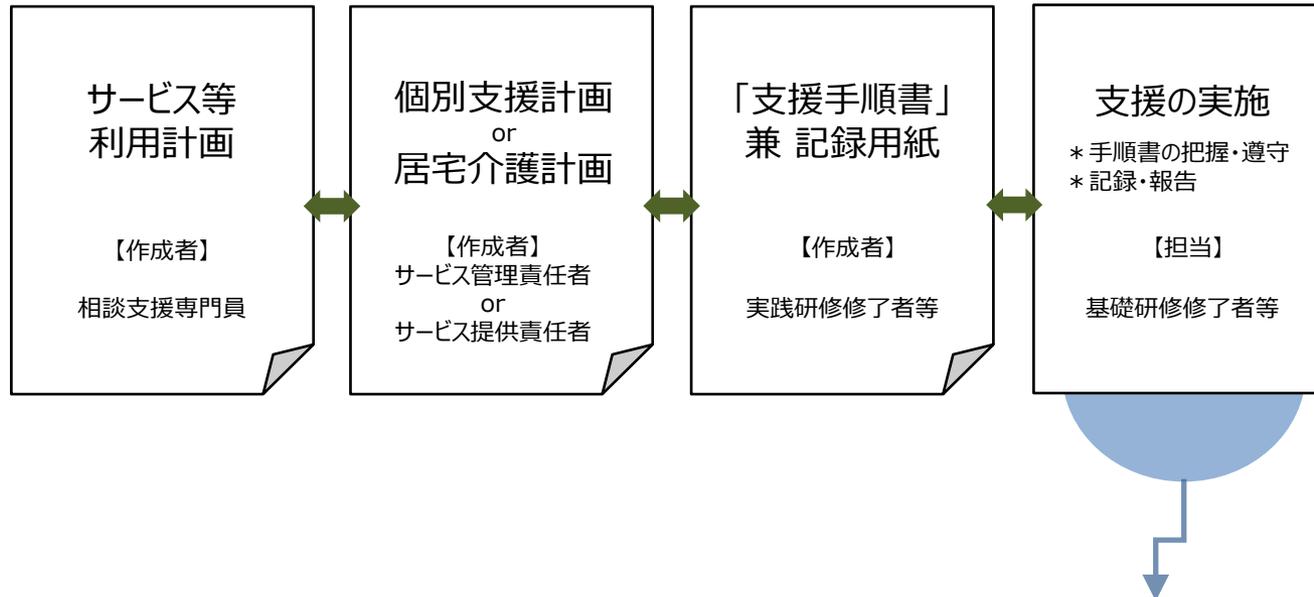
個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

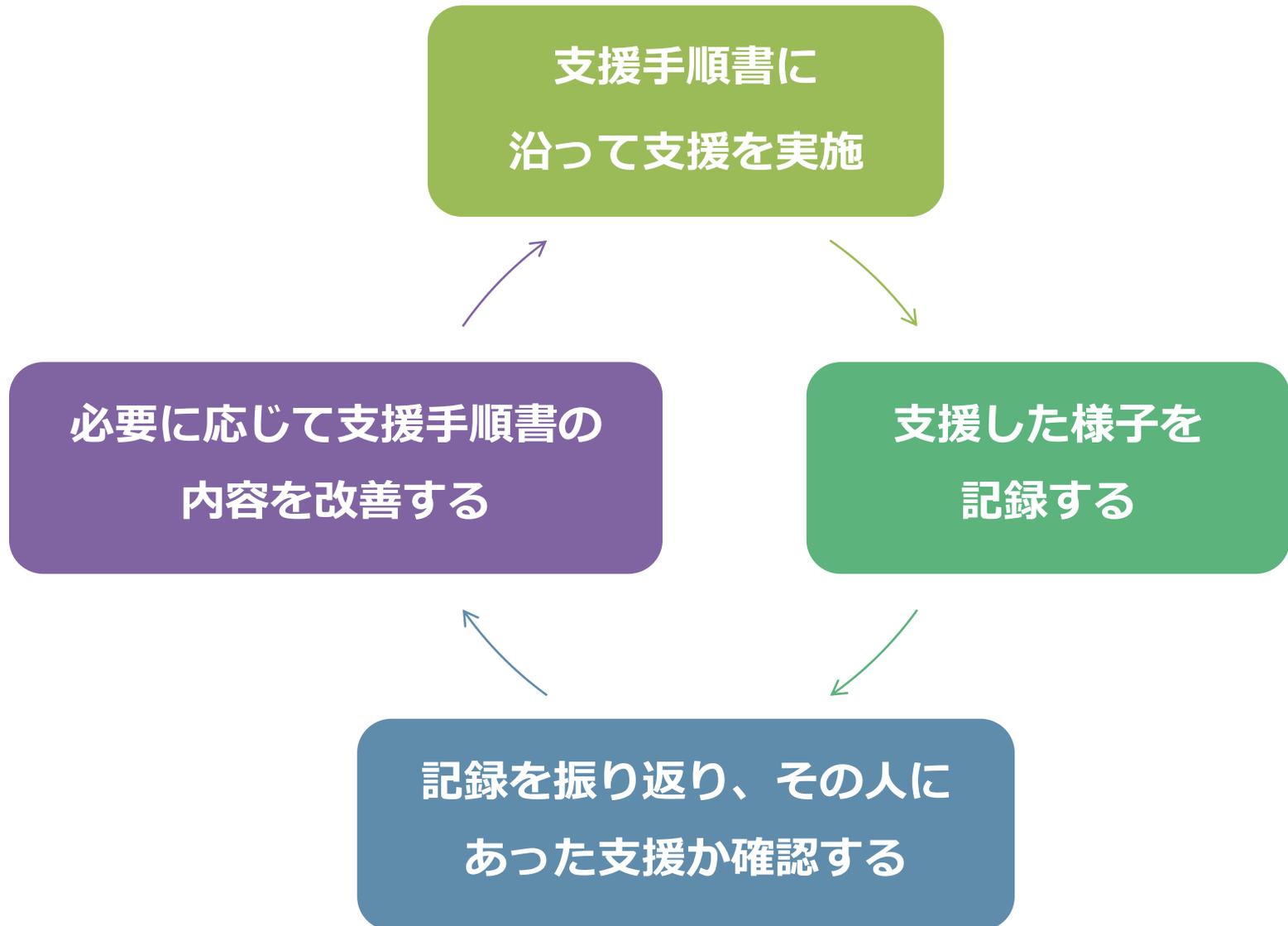
支援の実施と記録

支援の実施と記録



実際の支援に入る時には、支援手順書に沿って支援をすること、支援時の本人の様子などを記録しておくことが大切。

支援の実施



支援手順書に従って支援する際の留意点

事前に確認しておくポイント

事前準備	支援ツールの準備など、事前の準備が大切
支援手順書の内容	支援者が支援手順書の内容を理解できているか内容に変更がないか
その日の状況	体調（睡眠、排便、てんかん発作などのリズムなど）やその日の状況（自宅でいつものこだわりができなかったなどで、落ち着かない様子など）にも影響を受けやすいので確認しておく

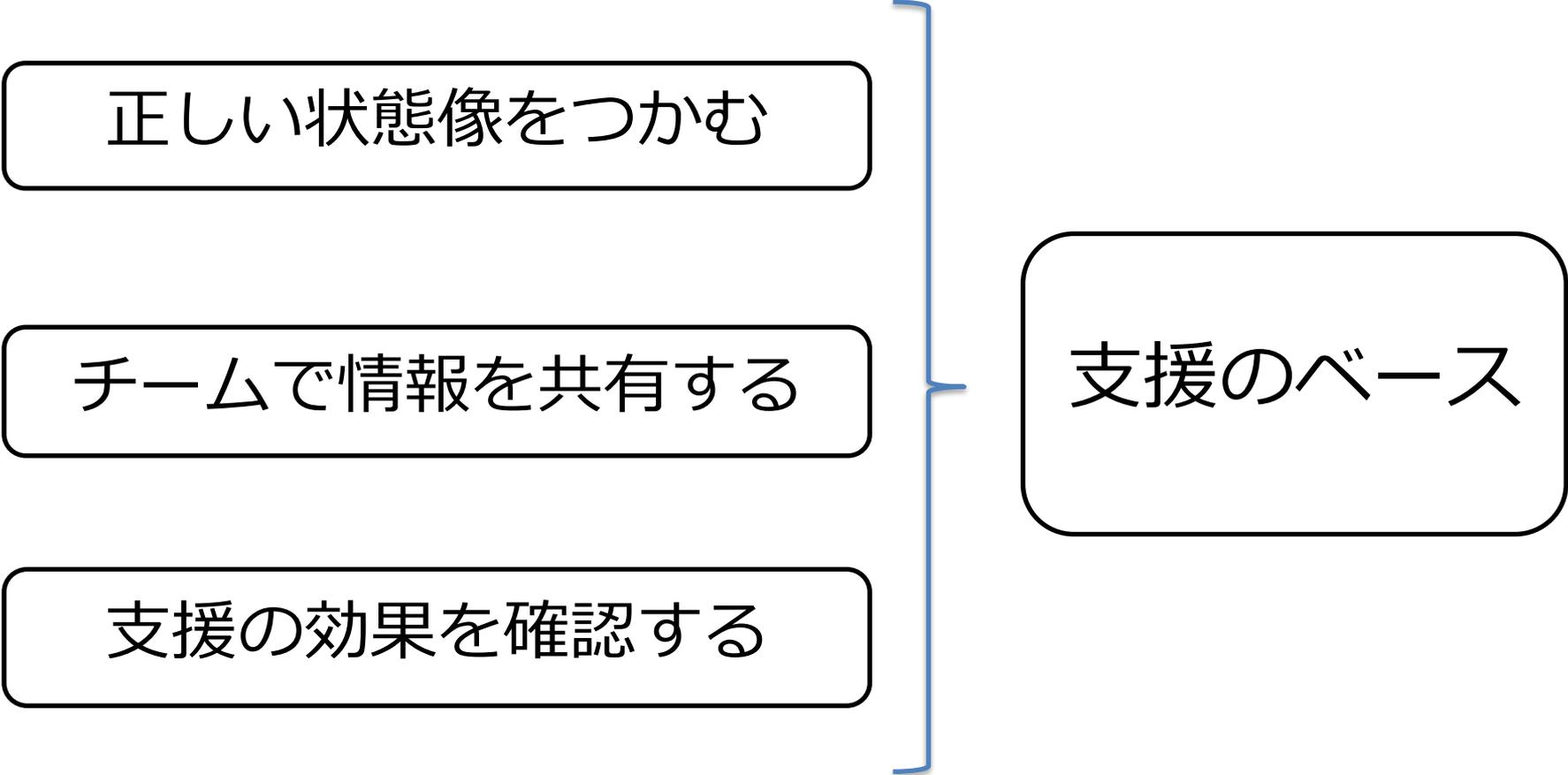
記録の重要性

正しい状態像をつかむ

チームで情報を共有する

支援の効果を確認する

支援のベース



正しい状態像をつかむ

- 大変な人？大人しい人？・・・など印象では具体的な状態像がわからない
- いつ、どこで、どのような行動をとっているかなど、具体的な情報から正しい状態像を知る
- 正しい状態像を知ることによって、その人にあった支援につながる

情報共有の重要性

- ・ チームで支援したり、対応を考えていく上で情報共有は重要
- ・ 直接の関わりで得られた情報をチームで共有する

情報共有のベースとなる記録

例

今日は大変
だった

何が？ 誰が？
状況がわかりにくい

田中さんの水遊びを止
めたら、頬を叩く自傷
があった。
支援者も対応に困った。

具体的に記述

具体的な状況が
共有できる

情報共有のベースとなる記録

- ・ 具体的な状況を記録する
- ・ 支援者の主観と具体的な状況をわけて記録
- ・ 「いつ・どこで・誰が・どのように」を意識する
- ・ 読み手を意識する

→具体的な状況を共有することで、支援者の共通認識を持ちやすい

支援の効果を確認する

- 支援に取り組んだ結果が記録として残っていると振り返りしやすい
- 支援の結果を振り返りながら、その支援が適切かどうか？改善点があるか？を確認していく

計画の見直し

- ・ 記録をもとに
 - ・ 上手くいった支援は継続・発展させる
 - ・ 上手くいかなかった支援は見直しする
- = 見直しを繰り返しより本人にあった
支援手順書に

- 支援手順書に基づいて支援したが上手くいかなかったなので自分の時は対応を変えている

→バラバラの支援に

緊急時は除く

- うまくいかなかった時は上司に相談したりチームで共有する
- チームで共有し支援手順書を改定していく
- 日々の「報告・連絡・相談」が大切 

⑦ 支援を組み立てるための基本

- ・ 支援を組み立てるための基本的な流れ

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

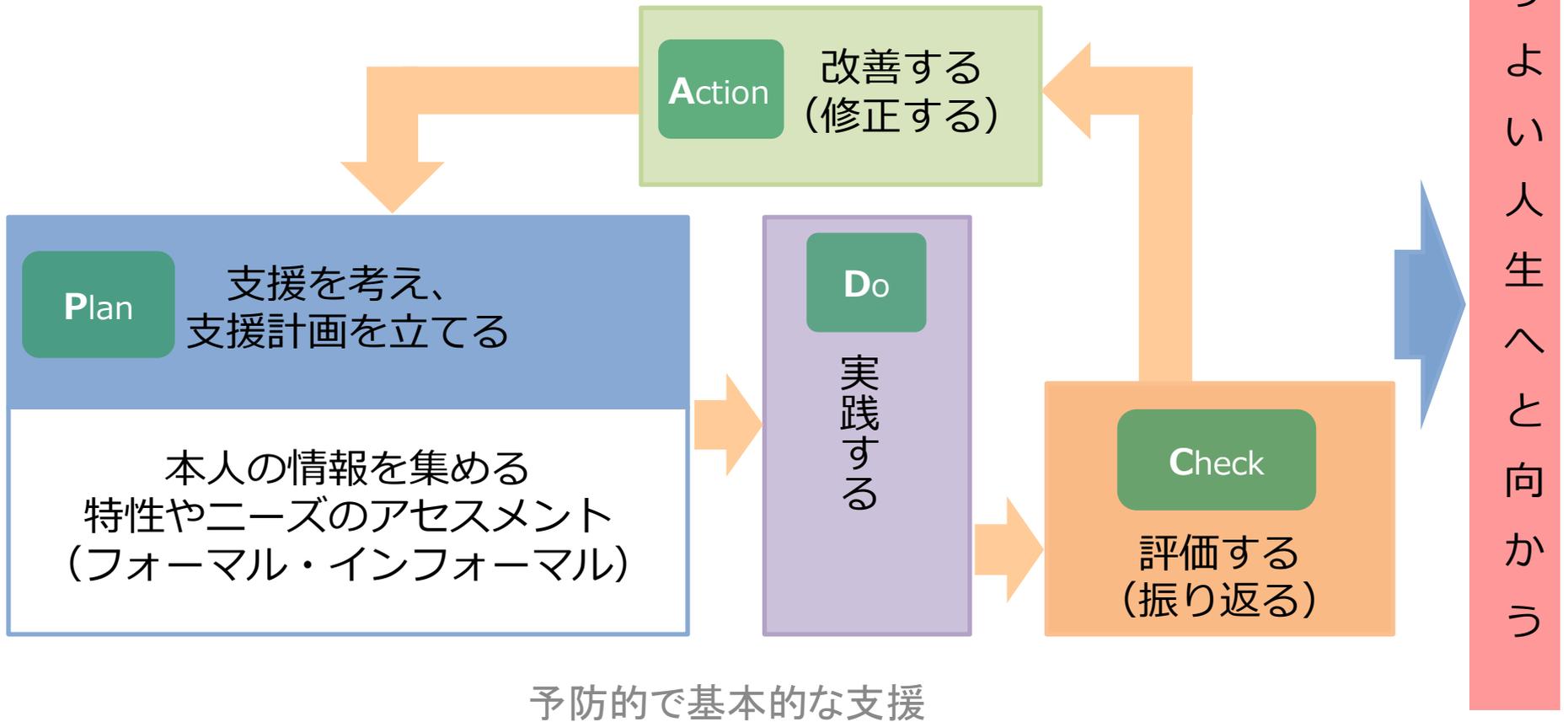
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、Ⅲについて主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



実践研修修了者が目指すもの

【支援手順書の作成】

- ・強度行動障害が表出しているケースに対し、基礎研修で学んだことを踏まえながら支援手順書を作成する。

【支援手順書の内容と記録方法を伝達する】

- ・支援の統一に向けて、「支援手順書」のサービス提供方法と日々の支援の記録方法について、現場スタッフに正確に伝達する。

【検証と修正】

- ・一定期間実施した支援の結果を取りまとめ、サービス管理責任者および現場スタッフと相談し、支援方法の変更や継続について議論する。

⑧実践研修の進み方と 演習の構成

実践研修の進み方①

① アセスメントの方法

演習1

- ・ 具体的なアセスメントの方法
(行動チェックシートの記入)

演習2

- ・ 障害特性に基づくアセスメント
(冰山モデルの作成)

② 支援手順書の作成

演習3

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (1)

演習4

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (2)

③ 記録の分析と支援手順書の修正

演習5

- ・ 記録の方法
- ・ 記録の分析と支援手順書の修正

実践研修の進み方②

④組織的なアプローチ

講義1

- ・組織的なアプローチの重要性



⑤実践報告

講義2

- ・チームの支援の実際



⑥関係機関との連携

演習6

- ・医療機関との連携方法

演習の構成



- ・ 演習 1 から演習 5 まで順番に行うことが、支援手順書を作成するプロセスとなります。

【演習全体で学ぶこと】

- ① 支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法
- ② P D C A サイクルの流れで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法

アセスメントの方法

- 具体的なアセスメントの方法

この時間で学ぶこと

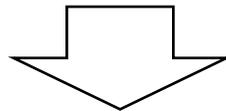
- これまで行動障害が現れやすい人たちへの支援においては、
「障害特性に合わせた支援が必要であること」
「支援者が統一した支援をすること」
が大切であることを確認してきました。
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成するための根拠となるアセスメントの方法について学びます。

演習の流れ



演習 1

具体的なアセスメントの方法



- i) アセスメントについて
- ii) 事例の紹介
- iii) 本人の行動を確認する

i) アセスメントについて

アセスメント

- ・ アセスメントとは？
「評価」や「実態把握」
- ・ 基本的なアセスメント情報
「医学的な診断」「障害支援区分」「療育手帳」など

実際の支援には、
支援の内容に直結
する詳しい情報が
必要

「フォーマルなアセスメント」
・ 知能検査、発達検査など標準化
された検査

「インフォーマルなアセスメント」
・ 日常の観察やインタビューによっ
て得られる情報

行動チェックシート

本人の行動を観察して具体的な行動を書き込むシート

本人の障害特性に基づく行動に着目することができたり、課題となる行動を絞り込むことができる

行動チェックシート

		例	?	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない			
	セ: やり取りが続かない			
	ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
	ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない			
	ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 目を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好み、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

特性確認シート

本人の行動について、その背景となる特性を確認するためのシート

必ずしも「課題となっている行動」だけでなく、本人の行動から隠れている特性を整理することができる

特性に対応する支援のアイデアも確認することができる

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらい、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたいか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)	
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
	15) やり取りの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点)
		17) なんとなん、たいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
物の一部に対する強い興味	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
		25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
26) 視覚の過敏や鈍麻がある			
27) 触覚の過敏や鈍麻がある			
28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある			
29) 味覚の過敏や鈍麻がある			
30) 前庭覚の特有の感覚がある			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

環境確認シート

本人の特性と合っていない
環境を確認するためのシート

支援する人や、さまざまな刺激・情報など見落としがちな環境の項目を振り返ることができる

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありませんか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

強み(ストレングス) 確認シート

本人の得意なこと、できること
などを確認するためのシート

具体的な支援を組み立てるとき
にヒントとなる

強み(ストレングス)確認シート

本人の強み(ストレングス)	活かせそうな場面や状況
わかること・できること 例) なくなったら 終わり、ペットボトルのふたを 開ける ハサミを使 うのが上手 など	
好きなこと(遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やりたがること 例) ハンモックで 揺れる ○○のキャラクター ビッタリはまる 色 を合わせる	
得意なこと(これには助けられているなど) 見方を変えれば 得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば 待つことができる 変更は苦手だがいつもと 同じ ことはできる	
その他	

ii) 事例の紹介

名前：田中正則（たなかまさのり）さん(仮名)

年齢：32歳 性別：男性

診断名：自閉スペクトラム症 重度知的障害 IQ:30

利用しているサービス：共同生活援助・生活介護・
行動援護

IQについて振り返りましょう

軽度	IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当	
中度	IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当	
重度	IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当	
最重度	IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満	

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10による。

田中さんは、グループホームに住む重度知的障害を伴う、自閉スペクトラム症の男性です。

平日はグループホームから生活介護事業所に通い、休日は、ときどき行動援護でヘルパーさんと外出しています。

田中さんの普段の行動には、様々な自閉スペクトラム症の特性が現れています。

※「田中さんの基本情報」参照

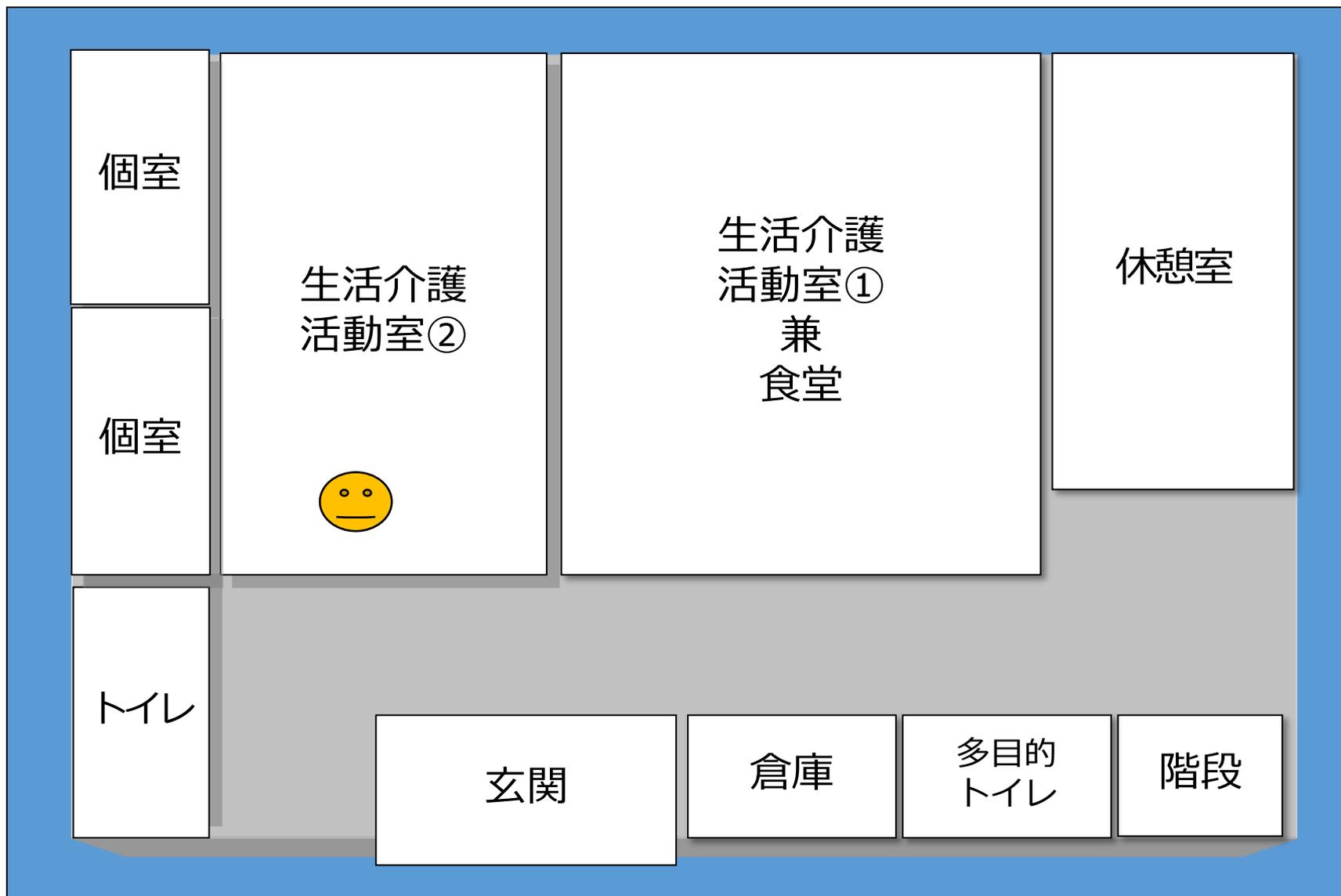
田中さんの活動場面

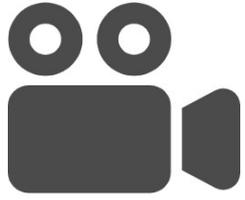
ある平日の午前中の生活介護事業所での様子です。
作業をやることになっていますが、田中さんは午後からのお出かけのことが気になっています。

担当している職員は、田中さんに作業をしてもらうために、懸命に声をかけて作業をするように促しています。

しかし、田中さんはお出かけのことが気になり、作業どころではないようです・・・。

生活介護事業所の中の配置図





動画の視聴

iii) 本人の行動を確認する

行動を見る視点の大切さ

- 行動障害のある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があります。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- まずは、生活介護事業所での田中さんの具体的な行動を確認していきましょう。

行動に注目する

「行動チェックシート」を使って、田中さんの行動を確認します。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一面的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

個人ワーク | 行動に注目する

1. 行動チェックシートで生活介護事業所での田中さんの行動を確認します。

社会性の特徴

社会性の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

行動チェックシート

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない		
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	エ: 周囲に合わせて行動できない		
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	キ: 言葉で指示しても行動できない		
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーア）		
	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
	カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	ス: やり取りが合わない		
	セ: やり取りが読めない		
	ソ: 衝突に話し始めたり、黙込込ことがある		
	ガ: やることがないときに口ひらいている、じっとしている		
	ギ: 自分から動くことができない		
	グ: 予定の言葉に混乱することが多い		
感覚	ヒ: 言葉が変更されると混乱することが多い		
	ホ: 目標が変更されると混乱することが多い		
	ヘ: 活動が途中でやめたり、変更することができない		
	ヘ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	ヘ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
	ヘ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	ヘ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大量に聴かせる、などの行動がある		
	ヘ: 反しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに眩しがる、などの行動がある		
	ヘ: 特定の音に過敏になる、特定の音に嫌がる、または感じていないような行動がある		
	ヘ: 辛い食べ物、刺激の強い味を好み、同じものばかり食べる、などの行動がある		
	ヘ: 特定の匂いや味を嫌がる、特定の匂いを嗅いで入れない場所がある、などの行動がある		
	ヘ: クルマの回る、ロケットが多い、高い場所が好き、本音用等、身体の動かし方に特徴がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	
		イ: 人との関わりが一方向的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ユ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコラリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

想像力の特徴

想像力の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係ない行動をする		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発音が難しい	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
		カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない			
	セ: やり取りが読めない			
	ソ: 衝突に話し始めたり、黙り込むことがある			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
	ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない			
	ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大声で叫ぶ、などの行動がある		
		ハ: 反しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに敏感すぎる、などの行動がある		
		ヒ: 特定の音程に敏感すぎる、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
	フ: 辛い食べ物、刺激の強い味を好み、同じものばかり食べる、などの行動がある			
	ヘ: 特定の匂いや味をたがえる、極端に嫌がる、嗅いで入れない場所がある、などの行動がある			
	ホ: クラカク回る、ロッキンブが多し、高い場所が好き、本器用等、身体の動かし方に特徴がある			

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう🎥

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

感覚の特性

感覚の特性について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーアクト)		
	発音が難しい	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
		カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
やり取りが難しい	ス: やり取りが噛み合わない			
	セ: やり取りが読めない			
	ソ: 唐突に話し始めたり、黙込込めることがある			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	ヤ: やるべきでないときに口づかしている、じっとしている		
		ユ: 自分から動こうとできない		
		ヨ: 予定の必要に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	リ: 自分のルールを変えるに混乱することが多い		
		ロ: 目標が変更されると混乱することが多い		
		ハ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
物の一部に対する強い興味	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		フ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ホ: 細かいことが気になってやるべきことができない		
	感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	
			ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	
			ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動に注目するということ

- この後の演習では、「作業中に自傷をする」という田中さんの行動について、その背景を探っていき、必要なサポートを整理したうえで、田中さんに合った支援の手順書を作っていきます。
- しかし、支援を組み立てるためには、自傷することだけに注目するのではなく、田中さんがさまざまな苦手さをもっていることに気づくことが大切です。
- 検討すべき行動を探すためだけではなく、本人の特性に気づくためにも客観的な観察（アセスメント）が必要です。

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらきかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 支援者から止められて作業中に自傷をする
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている お出かけにこだわり作業ができない
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

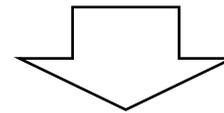
記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳をふさいでいる
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き（基本情報より）
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水道の水を長時間触っている
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

アセスメントの方法

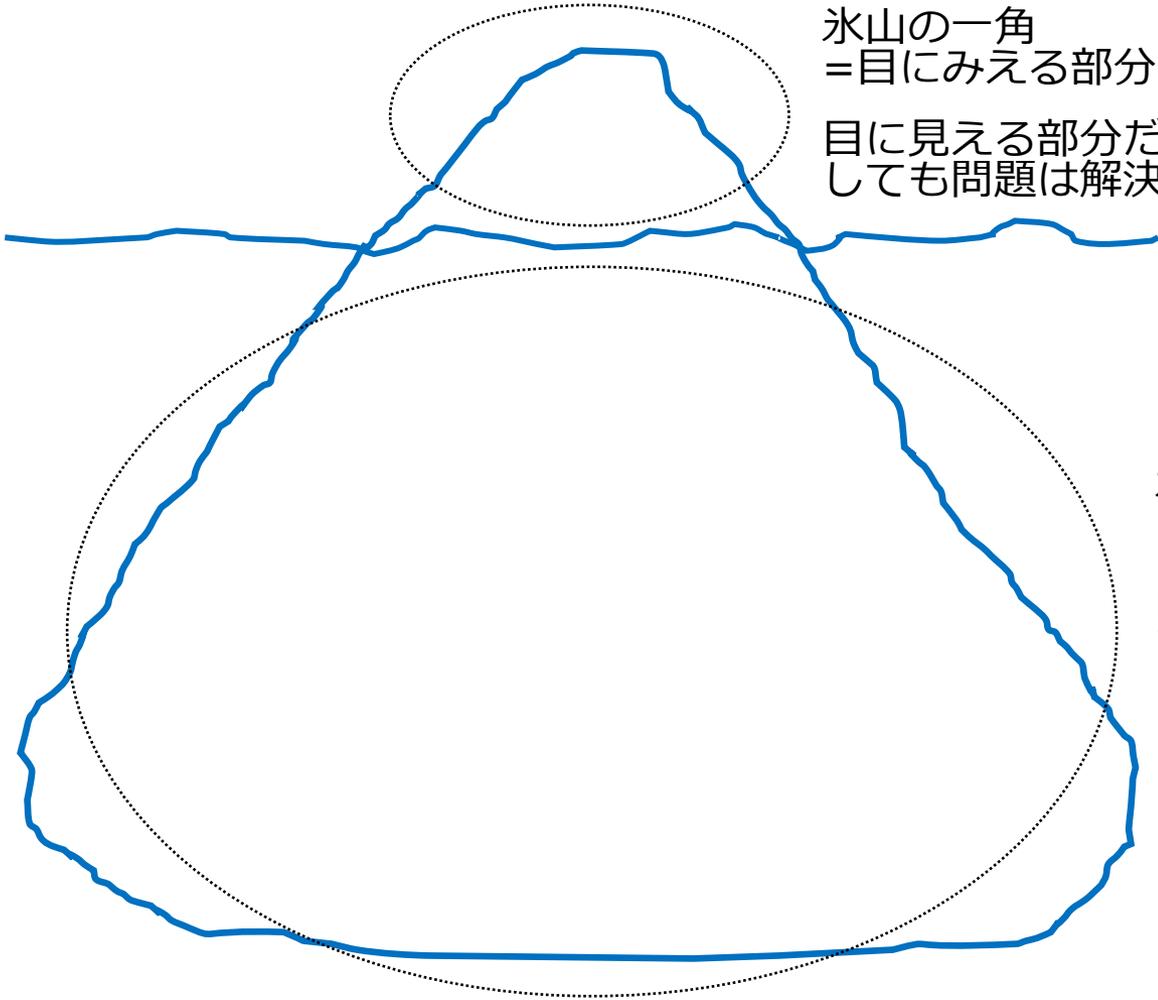
- ・ 障害特性に基づくアセスメント



- i) 氷山モデルについて
- ii) 課題となる行動の確認
- iii) 本人の特性を整理する
- iv) 行動が現れている環境や状況を整理する
- v) 必要なサポートを整理する

i) 氷山モデルについて

行動の背景を知るための「冰山モデル」



The diagram illustrates the iceberg model of behavior. A solid blue line represents the visible part of the iceberg above the water surface. A dotted blue line represents the much larger, submerged part of the iceberg below the surface. A horizontal line indicates the water level. A small dotted circle highlights a peak of the visible part, and a larger dotted circle encompasses the entire submerged part.

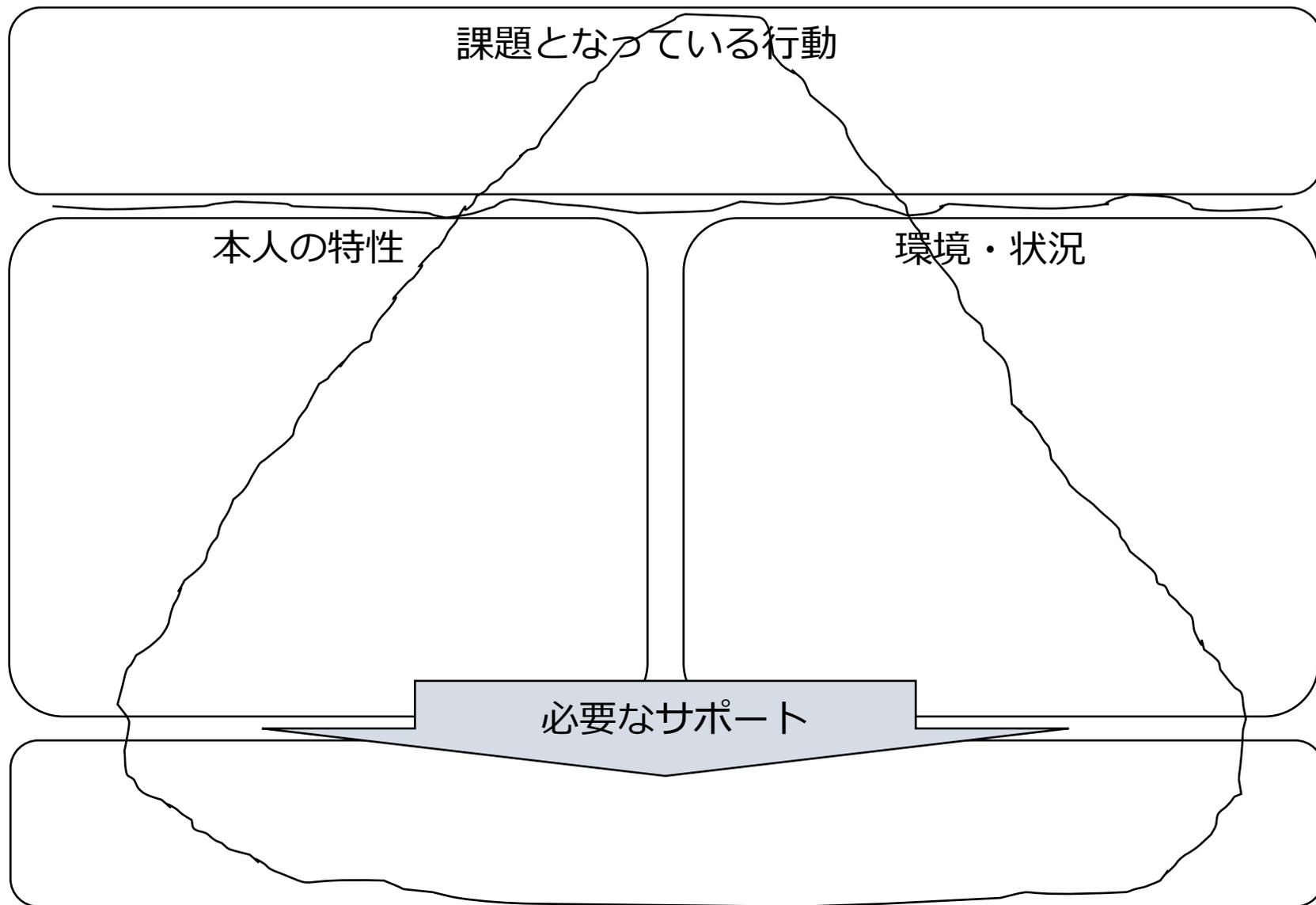
氷山の一角
=目にみえる部分

目に見える部分だけに対応を
しても問題は解決しない。

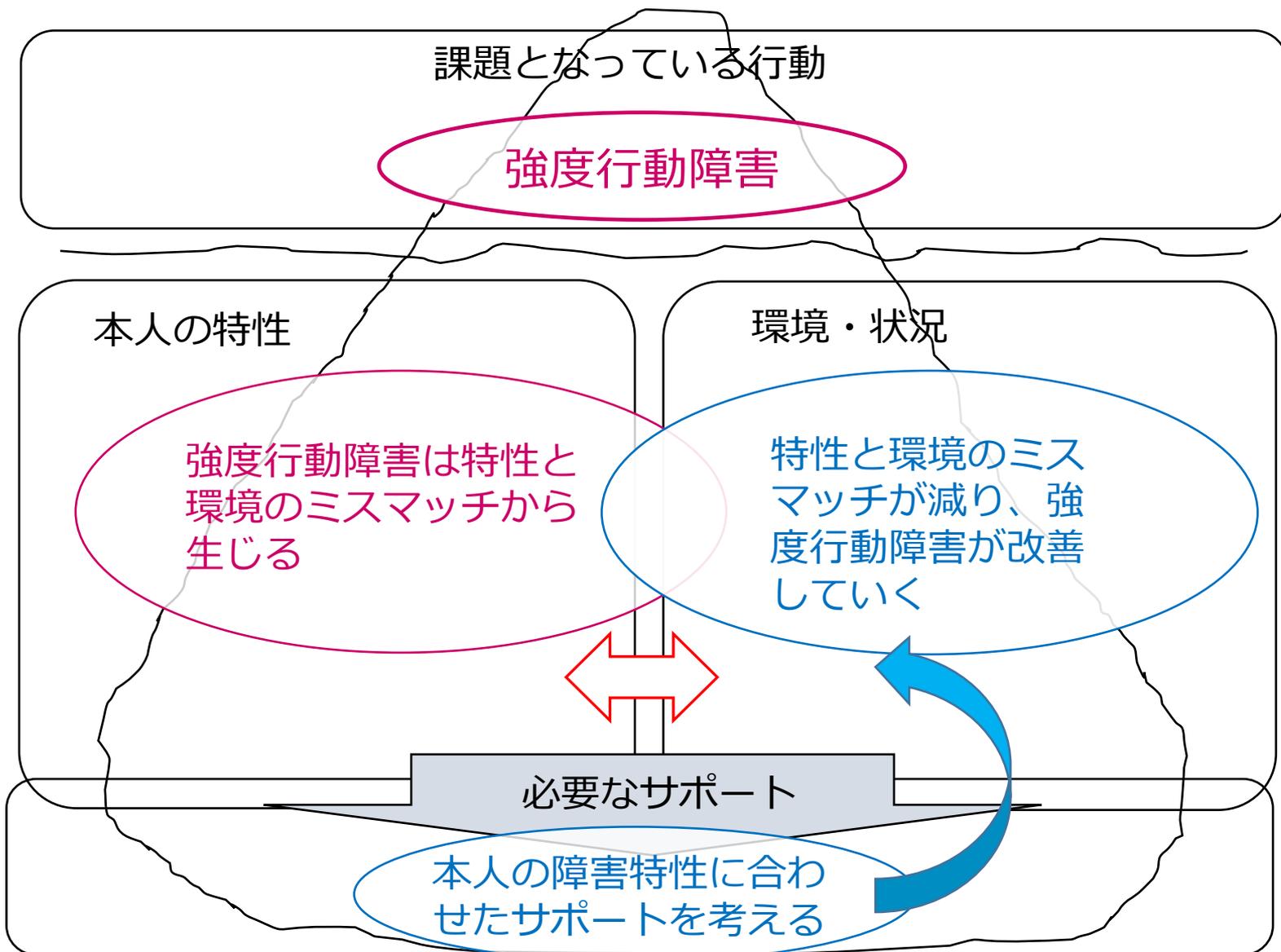
水面下に大きな塊がある
=目にみえない部分

目に見えない部分を理解して
アプローチすることで、表面
に出ている問題が小さくなる。

冰山モデルシート



氷山モデルシート



氷山モデルシートと補足シートの関係

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	1. 人や集団との関係に馴染みがある		
	2. 人の関わりが一方的であることが多い		
	3. 相手の気持ちや期待を察知する行動がある		
状況の理解が深い	1. 周囲に合わせた行動ができる		
	2. 周囲の状況に押し流されて行動しない		
	3. 危険や迷惑、社会ルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	1. 言葉で指示されたこと聞くことができる		
	2. 相手の言葉とその本意が読める (エコーアクト)		
	3. 行動や作業などで自分の気持ちを表現する		
物への理解が深い	1. 言葉で自分の感情や考えを伝えることができる		
	2. 言葉は自分の気持ちや期待を的確に伝えることができる		
	3. やり取りがスムーズ		
想像力	1. 自分と予定を立てることができる		
	2. 自分から行動を起こすことができる		
	3. 予定の変更や混乱に気づくことができる		
想像力	1. 自分への興味や関心がある		
	2. 目標が変更されるに混乱することが多い		
	3. 活動を進めずじまい、変更することができない		
想像力	1. 特定の興味や活動に没頭することができる		
	2. 自分の興味があるものに没頭することができる		
	3. 興味や活動がなくなるとやるべきことがないと感じる		
想像力	1. 目を凝らす、特定の音や色、特定の言葉や匂いを感じる、自分の行動がある		
	2. 特定の音、色、匂い、味を好む、同じものばかりを食べる、自分の行動がある		
	3. 特定の音や色、匂い、味を好む、同じものばかりを食べる、自分の行動がある		

	課題となっている行動 (本人が困っている行動) 『作業中に自覚をする』	背景と可能性	支援のアイデア
社会性	1. 人や集団との関係に馴染みがある	1) 相手への関心が深い	A) 読み取ってもらえ、感じてもらえなく、具体的な伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
	2. 相手の気持ちや期待を察知する行動がある	2) 相手の期待を察知していることと理解する行動がある	B) 誰にどう伝えたいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
	3. 周囲に合わせた行動ができる	3) 周囲の状況に押し流されて行動しない	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見ることがわかる
	4. 危険や迷惑、社会ルールに関係なく行動する	4) 周囲の状況に押し流されて行動しない	D) よくに伝える (方法の視点・やりとりの視点)
	5. 言葉で指示されたこと聞くことができる	5) 周囲の状況に押し流されて行動しない	E) 本人が理解できる見える情報 (文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など) で伝える (やりとりの視点・見え方の視点)
	6. 相手の言葉とその本意が読める (エコーアクト)	6) 見えないうちの感情が深い	F) 本人が発信しやすいツールを (文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など) 提供する (やりとりの視点・見え方の視点)
コミュニケーション	1. 言葉で自分の感情や考えを伝えることができる	7) 顔、言葉の理解が深い	G) 視覚的なツールでやり取りができるようにする (やりとりの視点・見え方の視点)
	2. 言葉は自分の気持ちや期待を的確に伝えることができる	8) 言葉で伝えることが得意	H) 本人に分かちやすくて予定や変更を伝える (情報の視点)
	3. やり取りがスムーズ	9) 抽象的で具体的な表現の理解が深い	I) 始まったり終わりを分かりやすいようにする (情報の視点・場所の視点)
	4. 言葉で自分の感情や考えを伝えることができる	10) 言葉で伝えることが得意	J) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
	5. やり取りがスムーズ	11) のほろほろと伝えたりも分かる	K) 最初から正しい方法で行うことができるようにする (方法の視点)
	6. やり取りがスムーズ	12) 誰に伝えても分かる	L) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
想像力	1. 自分と予定を立てることができる	13) 周囲や状況に合わせてコミュニケーションが得意	M) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	2. 自分から行動を起こすことができる	14) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	N) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	3. 予定の変更や混乱に気づくことができる	15) やり取りの多量と処理が得意	O) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	4. 自分への興味や関心がある	16) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	P) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	5. 目標が変更されるに混乱することが多い	17) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	Q) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	6. 活動を進めずじまい、変更することができない	18) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	R) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
想像力	1. 特定の興味や活動に没頭することができる	19) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	S) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	2. 自分の興味があるものに没頭することができる	20) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	T) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	3. 興味や活動がなくなるとやるべきことがないと感じる	21) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	U) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	4. 目を凝らす、特定の音や色、特定の言葉や匂いを感じる、自分の行動がある	22) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	V) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	5. 特定の音、色、匂い、味を好む、同じものばかりを食べる、自分の行動がある	23) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	W) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)
	6. 特定の音や色、匂い、味を好む、同じものばかりを食べる、自分の行動がある	24) 想像や理解など非言語コミュニケーションが得意	X) 好きな判断、必要な判断は保障する (場所の視点)

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか (口ばり・指差し・実物・紙に書いて等)	指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 言葉をするときの立ち位置は適切ですか その他
物	何と触れ合いやすいものがありますか 見えると触れ合いやすいものがありますか 見えると触れ合いやすいものがありますか 見えると触れ合いやすいものがありますか その他	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 音が聞きやすい環境になっていますか その他
場所	本人の体調はいつも比べてどうですか その活動の場に本人の意思や動作や感情などが含まれていますか その活動の目的 (どうするの、どうしたら終わるのかなど) は理解できていますか	その場所にはどんな音が入っていますか その中に本人が苦手なものはありませんか
音	その場所の気温は何度くらいでしたか (あるいは暑かった・寒かった等)	その場所の気温は何度くらいでしたか (あるいは暑かった・寒かった等) その気温は本人にとって快適なものですか
気温	その場所の湿度は何度くらいでしたか (あるいは蒸し暑い・乾燥している等)	その場所の湿度は何度くらいでしたか (あるいは蒸し暑い・乾燥している等) その湿度は本人にとって快適なものですか
湿度	その場所にはどんな臭いが入っていますか その中に本人が苦手なものはありませんか	その場所にはどんな臭いが入っていますか その中に本人が苦手なものはありませんか
臭い	その場所にはどんな音が入っていますか その中に本人が苦手なものはありませんか	その場所にはどんな音が入っていますか その中に本人が苦手なものはありませんか
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの

本人の強み (ストレングス)	活かせる場面や状況
わかること・できること 例) なはなから読む、ペットボトルのふたを開ける、ハリスを使うの手順 など	
好きなこと (遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やりたがること 例) ハンモックで寝る、〇〇のキャラクター、ヒョウはまる、色を合わせる	
得意なこと (これには自信を持っているなど) 見方を覚えれば得意になれること 例) 目的がわかれば待つことができる、変更は予定だけじゃなくても同じにはできる	
その他	

行動チェックシート

特性確認シート

環境確認シート

強み確認シート

支援のアイデア

氷山モデルシートと 補足シートの関係

行動チェックシート

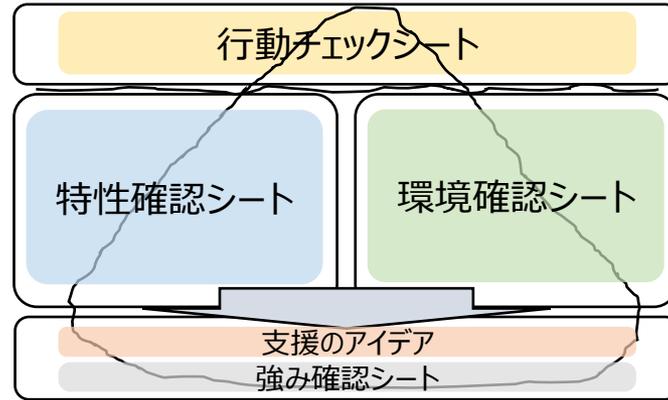
項目	内容	達成状況
1. 目標設定	目標を設定し、その達成のために必要な行動を計画する。	
2. 計画の実行	計画に従って行動し、進捗を確認する。	
3. 振り返り	行動の結果を振り返り、必要な調整を行う。	
4. 継続	目標達成のために継続的に行動する。	
5. 評価	目標達成の状況を評価し、今後の行動に活かす。	

行動チェック
シート

特性確認シート

項目	内容	確認状況
1. 特性の抽出	対象物から特性を抽出し、整理する。	
2. 特性の分類	抽出した特性を分類し、整理する。	
3. 特性の整理	整理した特性を整理し、整理する。	
4. 特性の活用	整理した特性を活用し、活用する。	
5. 特性の評価	活用した特性の評価を行い、評価する。	

特性
確認
シート



海み (ストロング) 確認シート

項目	内容	確認状況
1. 海みの抽出	対象物から海みを抽出し、整理する。	
2. 海みの分類	抽出した海みを分類し、整理する。	
3. 海みの整理	整理した海みを整理し、整理する。	
4. 海みの活用	整理した海みを活用し、活用する。	
5. 海みの評価	活用した海みの評価を行い、評価する。	

環境確認
シート

海み (ストロング) 確認シート

項目	内容	確認状況
1. 海みの抽出	対象物から海みを抽出し、整理する。	
2. 海みの分類	抽出した海みを分類し、整理する。	
3. 海みの整理	整理した海みを整理し、整理する。	
4. 海みの活用	整理した海みを活用し、活用する。	
5. 海みの評価	活用した海みの評価を行い、評価する。	

強み確認
シート

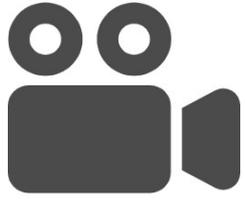
ii) 課題となる行動の確認

課題となる行動の表出

お出かけが気になって、田中さんはなかなか作業ができません。

田中さんに作業をしてもらうために、職員も懸命に働きかけています。

ある時、お出かけが気になる田中さんを職員が制止しようとする、田中さんは大きな声をあげて飛び跳ねながら自分の顔を叩いてしまいました。



動画の視聴

行動チェックシート の追加

行動チェックシート

記入例

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている 支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く 「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 支援者から止められて作業中に自傷をする 「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコラリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす	✓	
		ケ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている お出かけにこだわり作業ができない
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ネ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある				
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 目を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に目をふさいでいる キラキラする刺激が好き（基本情報より） 水道の水を長時間触っている
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシートの追加

記入例

行動チェックシート

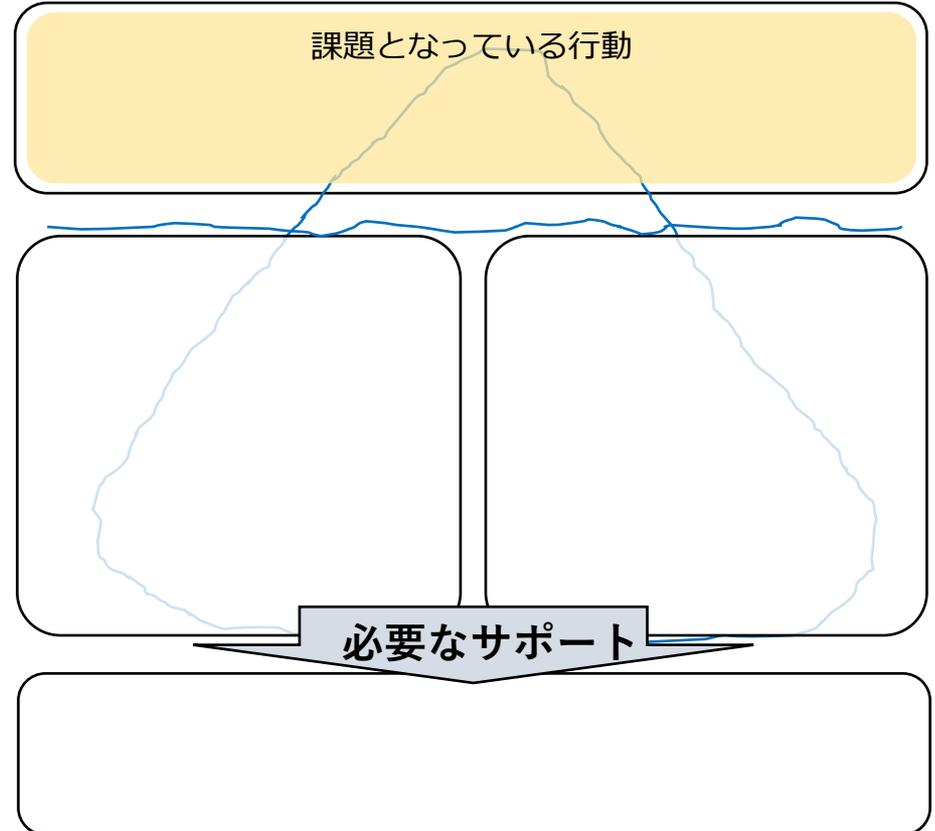
		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコリア)	✓	「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 支援者から止められて作業中に自傷をする
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

「行動チェックシート」の中から課題となっている行動を確認します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
コミュニケーション	理解が難しい	カ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
	発信が難しい	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
		コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを見わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	やり取りが難しい	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
		ス: やり取りがかみ合わない		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
		タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
	変化への対応が難しい	チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
		テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
物の一部に対する強い興味	ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない			
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
	ネ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない			
	ノ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			
感覚	感覚が敏感または鈍感	ハ: 目を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ヒ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヘ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		ホ: 美味しい痛食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嫌がる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

冰山モデルシート



行動チェックシート

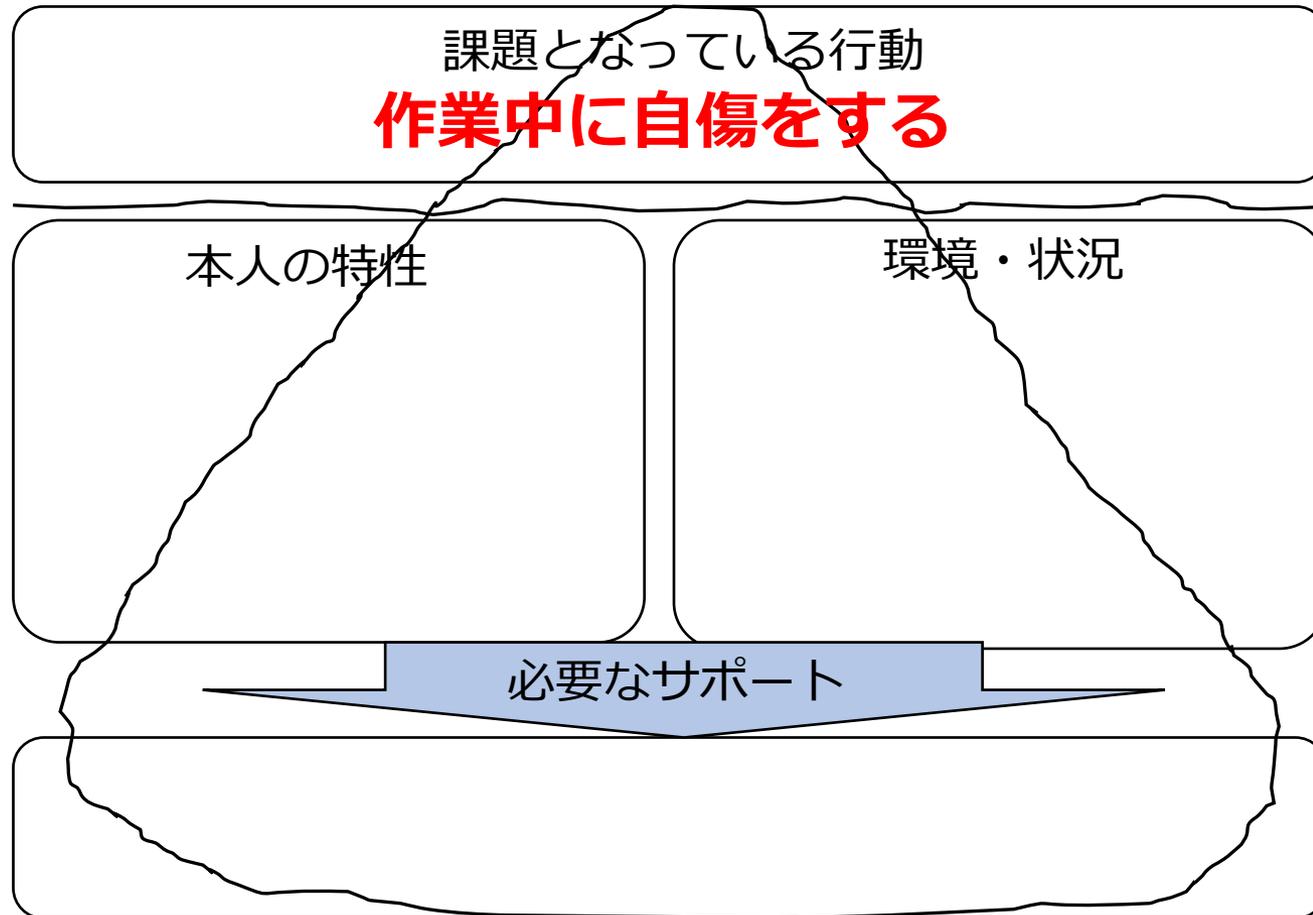
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましよ」と言っても座っている 支援者が「作業をしましよ」と言うと水遊びに行く 「作業をしましよ」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きたす 支援者から止められて作業中に自傷する
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ク: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを見わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
		タ: やることがないときにワロワロしている、じっとしている		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	チ: 自分から動くことができない	✓	部屋に入るとイスに座ってじっとしている お出かけにこだわり作業ができない
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
		テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
		ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
	物の一部に対する強い興味	ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
		ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
	感覚	ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある				
フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある				
ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある				
ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある				



「お出かけ」と言って立ち上がる、歩き出す、支援者から止められて
作業中に自傷をする

今回は、この行動に対応する支援手順書を作っていきます。

氷山モデルを使って田中さんの行動を整理します。



課題となっている行動

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

以上3つの条件のうち少なくともひとつに該当する行動と言われる。

参考文献『発達障害児の問題行動その理解と対応マニュアル』志賀利一

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
→自傷で田中さんがケガをするかもしれない
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
→大声を聞いた他の利用者が恐怖を感じるかもしれない
→支援者も恐怖を感じるかもしれない
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動
→作業ができなくなるかもしれない

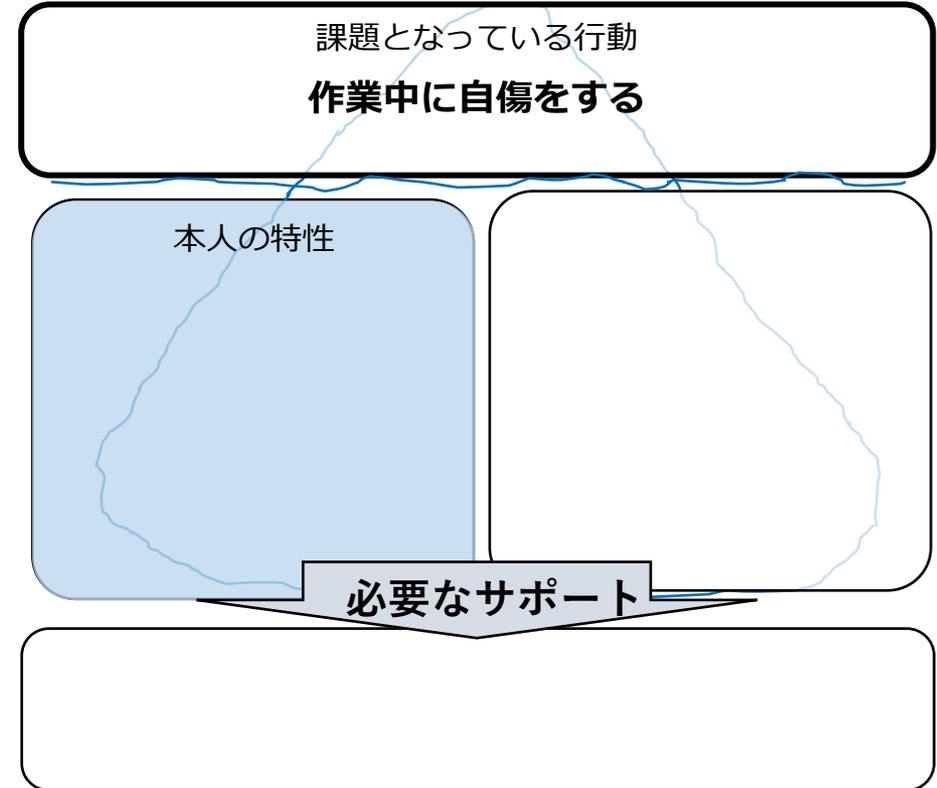
iii) 本人の特性を整理する

「特性確認シート」を使って本人の特性を整理します

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷する 』		
	背景となる特性	支援のアイデア
社会性	1) 相手への関心が薄い	✓
	2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	A)
	3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	B)
	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	C)
	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	D)
	6) 見えないものの理解が難しい	E)
コミュニケーション	7) 話し言葉の理解が難しい	F)
	8) 一度にたくさんのかんことを理解するのが難しい	G)
	9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	H)
	10) 話し言葉で伝えることが難しい	I)
	11) どのようにして伝えたいか分からない	J)
	12) 誰に伝えていいか分からない	K)
想像力	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	L)
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	M)
	15) やり取りの量が多しと処理が難しい	N)
	16) 段取りを適切に組み合わせることが難しい	O)
	17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	P)
	18) 今やることを自分で判断することが難しい	Q)
感覚	19) 先の予測をすることが難しい	R)
	20) 臨機応変に判断することが難しい	S)
	21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	T)
	22) 興味関心が狭くて強い	U)
	23) 細部が気になり違いに敏感	V)
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる	W)
感覚	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	X)
	26) 視覚の過敏や鈍麻がある	Y)
	27) 触覚の過敏や鈍麻がある	Z)
	28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	AA)
	29) 味覚の過敏や鈍麻がある	AB)
	30) 前庭覚の特有の感覚がある	AC)

冰山モデルシート



田中さんが作業中に自傷をする理由を考えます

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷する 』			
	背景となる特性	支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 涙み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

個人ワーク | 本人の特性を整理する

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」
に
関係する特性をピックアップします。
2. 氷山モデルシートの本人の特性の欄に転記
します。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) ように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	

<次のような仮説を立てながらチェックを入れます。>

「相手への関心が薄い」**ので**、
 「支援者の指示に注目しにくかった」**かもしれない**。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点） F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
感 覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する (場所の視点)
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

グループワーク | 本人の特性を整理する

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 「作業中に自傷をする」に関係する特性をグループで共有します

※「冰山モデルシート(グループ用)」に記入

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	✓
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	✓
		汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる C) ように伝える (方法の視点・やりとりの視点)	

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』

		背景となる特性		支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	✓	
		12) 誰に伝えていいかわからない		
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい		

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』

		背景となる特性		支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	✓	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	✓	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい		
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	✓	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
				J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする (方法の視点)

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』				
		背景となる特性		支援のアイデア
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	✓	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする （場所の視点） L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある		
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある		
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある		
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある		
		30) 前庭覚の特有の感覚がある		

「特性を把握する」という視点

- 個別の「障害特性」に対して周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての不適応行動が生じることがあります
- 本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
- 個別の困り感に対する合理的配慮が支援の基本となります
- その場合の合理的配慮は、特性に基づいた支援のアイデアを活用することがスタンダードとなっています

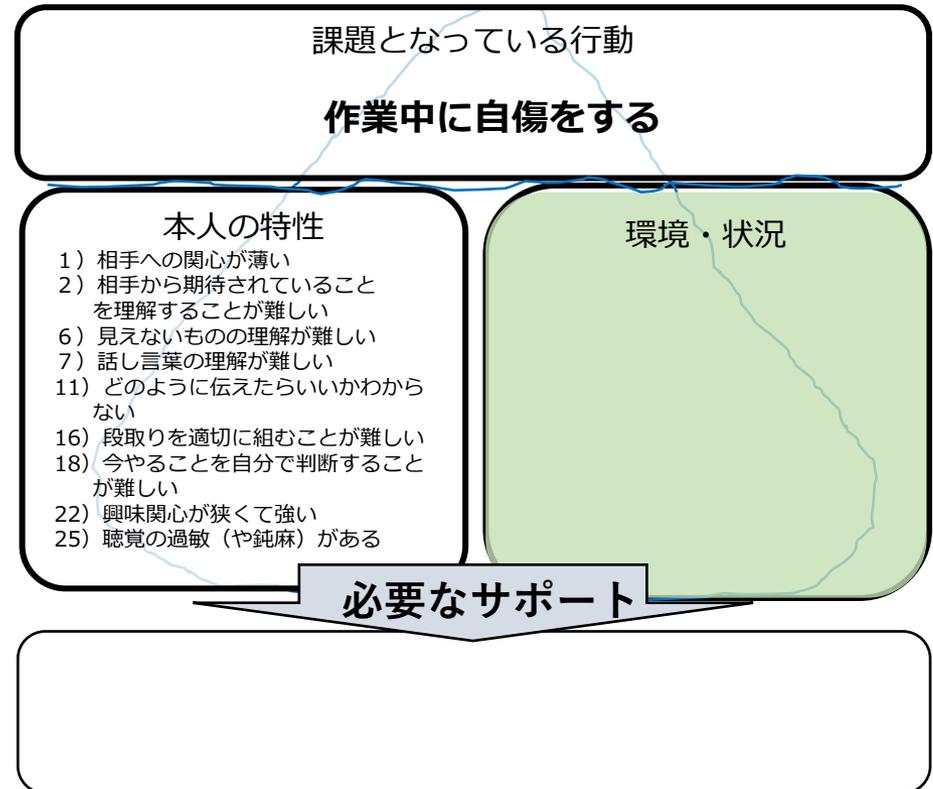
iv) 行動が現れている環境
や状況を整理する

「環境確認シート」を使って行動が現れている環境や状況を整理します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指差し・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

氷山モデルシート



次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	

次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

個人ワーク | 環境や状況を整理する

1. 環境確認シートで「作業中に自傷をする」
ときの環境や状況を書き出します。
2. 冰山モデルシート of 環境・状況の欄に転記
します。

グループワーク | 環境や状況を整理する

1. 「作業中に自傷をする」ときの環境や状況をグループで共有します

※冰山モデルシート（グループ用）に記入

記入例

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	支援者は言葉で指示を出している
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	作業の道具が準備されていない
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	近くに水遊びができる場所がある
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	今何をしたらいいかはっきりわかりにくい いつお出かけに行くのかわかりにくい

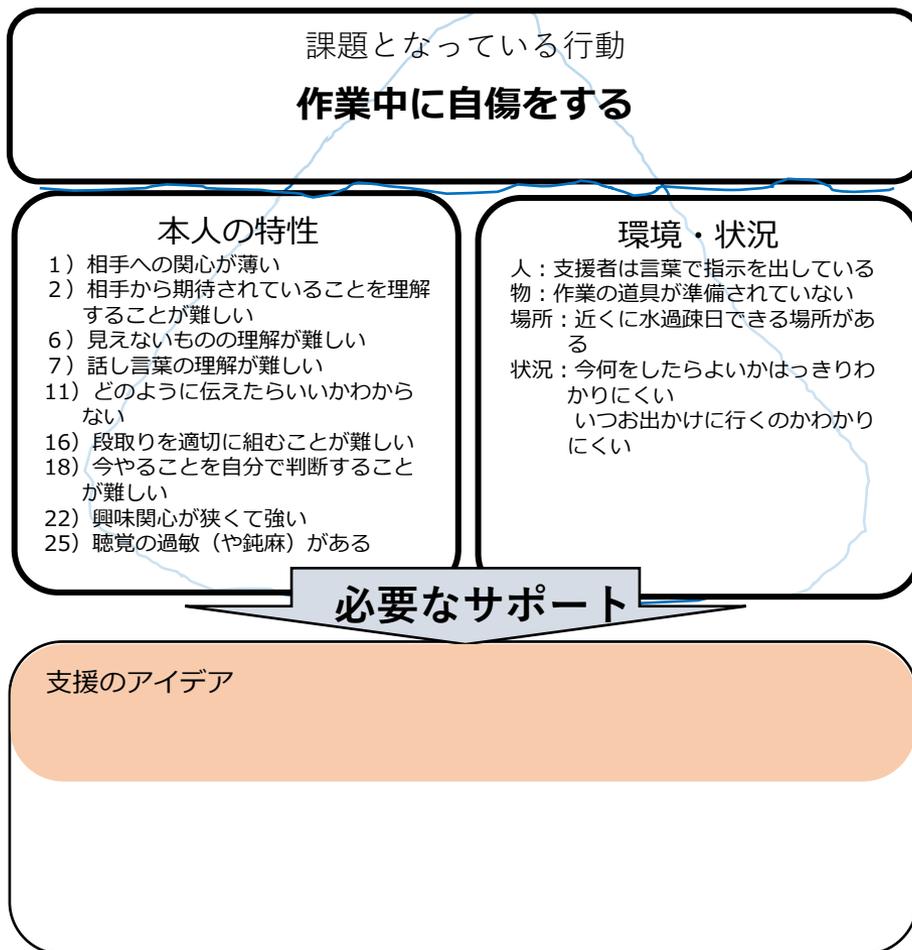
V) 必要なサポートを整理する

必要なサポートを「特性確認シート」の「支援のアイデア」を使って整理します

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『作業中に自傷をする』		
	背景となる特性	支援のアイデア
社会性	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりどりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりどりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりどりの視点)
	2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
	3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
	6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりどりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)を提供する(やりどりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする(やりどりの視点・見え方の視点)
	8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
	9) 抽象的であまいな表現の理解が難しい	
	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
	11) どのようにして伝えたいかわからない	
	12) 誰に伝えていいかわからない	
想像力	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
	15) やり取りの量が多いと処理が難しい	
	16) 段取りを適切に組むことが難しい	
	17) なんとなく、たいたいなどのイメージを持ちにくい	
	18) 今やることを自分で判断することが難しい	
感覚	19) 先の予測をすることが難しい	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
	20) 臨機応変に判断することが難しい	
	21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	22) 興味関心が狭くて強い	
	23) 細部が気になり遠くに敏感	
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
	26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
	27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
	28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
	29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
	30) 前庭覚の特有の感覚がある	

氷山モデルシート



田中さんの行動の背景となる特性に対応した支援のアイデアをピックアップします。

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらい、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点) D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
	やり取りが難しい	12) 誰に伝えていいかわからない	
13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい			
14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	15) やり取りの量が多いと処理が難しい	
		16) 段取りを適切に組むことが難しい	
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
	変化への対応が難しい	18) 今やることを自分で判断することが難しい	
		19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
	物の一部に対する強い興味	21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
		22) 興味関心が狭くて強い	
23) 細部が気になり濃くに敏感			
感覚	感覚が敏感または鈍感	24) 少しの置いて大きな不安を感じる	
		25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
30) 前庭覚の特有の感覚がある			
			G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点) K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)

個人ワーク | 支援のアイデアを整理する

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」背景となる特性に対応する支援のアイデアをピックアップします。
2. 冰山モデルシートの支援のアイデアの欄に転記します。

グループワーク | 支援のアイデアを整理する

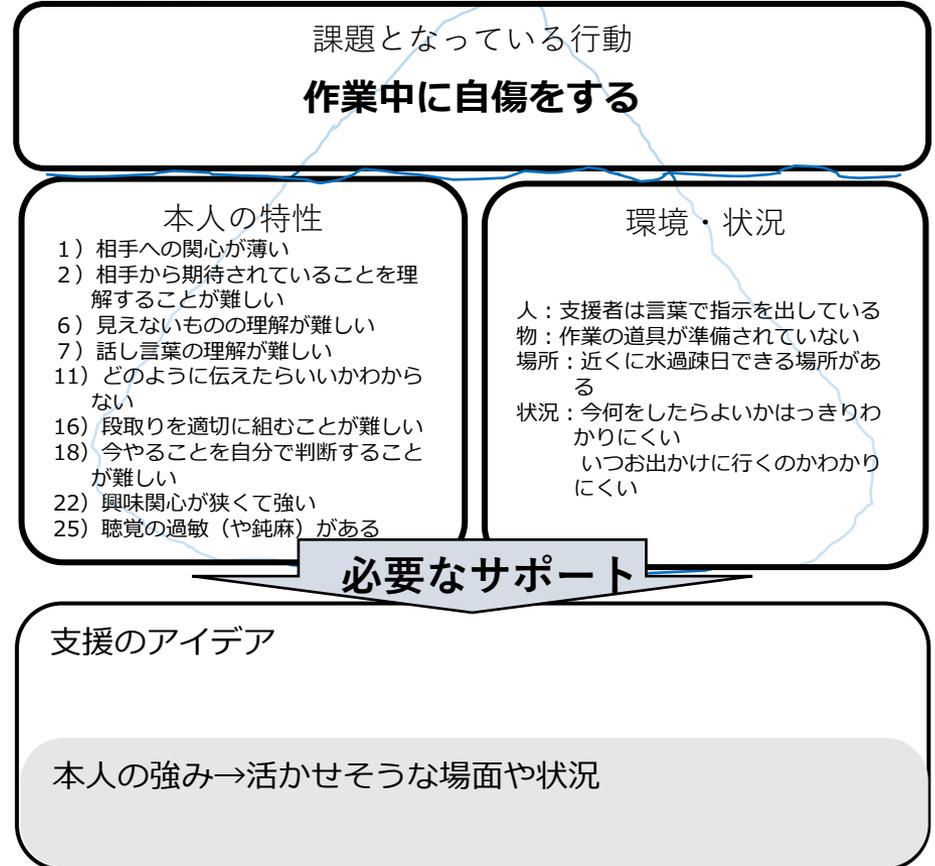
1. 「作業中に自傷をする」に関係する特性に対応する支援のアイデアをグループで共有します
※氷山モデルシート（グループ用）に記入

さらに「強み（ストレングス）確認シート」 を使って具体化します

強み（ストレングス）確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること</p> <p>例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること</p> <p>例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ヒックリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど） 見方を変えれば得意かもしれないこと</p> <p>例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

冰山モデルシート



「強み」(ストレングス)とは

支援をするときに活かせそうな、本人の能力や環境

※ストレングスモデル

その人が元来持っている強さに注目し、それを引き出して活用していこうとする考え方

障害特性も「リフレーミング」により強みになる場合もある。

(参考) リフレーミング

ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見ること

今までの考えとは「解釈を変える・視点を変える」

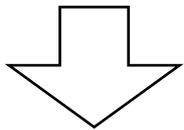
「違った角度からアプローチする」ことにより、誰もが潜在的に持っている能力を使って、意図的に自分や相手の生き方を健全なものにし、ポジティブなものにしていく。

リフレーミングの例

「水をどのくらい飲めましたか？」

【ポジティブ】

半分も飲めている

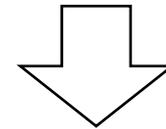


「あと少しで飲み終わりますね。」
「頑張ってますね。」



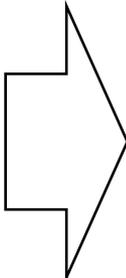
【ネガティブ】

半分しか飲めていない



「全然飲めていないですね。」
「早く飲んでくださいよ。」

リフレーミングの例

- 動作が遅い
 - 大雑把
 - 頑固、融通がきかない
 - 気が散りやすい
 - 自己中心的
 - 心配性
 - 自分勝手
 - 作業が雑
 - 集団で行動できない
 - 飽きっぽい
 - しつこい
 - 人に流されやすい
- 
- 一つ一つ丁寧にできる
 - 小さいことが気にならない
 - 強い意志を持っている
 - 好奇心旺盛
 - 自分のことを大切にできる
 - 先のことを予測できる
 - 主体的に行動できる
 - 大まかなことはできる
 - 1人で行動できる
 - 気持ちの切り替えが早い
 - ねばり強い
 - 状況把握ができています

リフレーミングの考え方の大切さ

リフレーミングは、問題、課題への対応方法を考えるときに用いることが多い。

問題・課題解決において

- ① 「できない理由」ではなく「どうやったらできるか」を考えるようになる
- ② その人自身を変えようとするのではなく、環境、支援方法を変えるようになる
- ③ ピンチをチャンスに変える思考習慣が身につく

活かせそうな強み（ストレングス）を書き出します（活かせそうな場面や状況も考えます）

強み（ストレングス）確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
わかること・できること 例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など	
好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること 例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ビックリはまる 色を合わせる	
得意なこと（これには助けられているなど）見方を変えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる	
その他	

個人ワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 活かせそうな強み（ストレングス）シートで、活かせそうな強み（ストレングス）を書き出します（活かせそうな場面や状況も考えます）。
2. 氷山モデルシートの活かせそうな強みの欄に転記します。

グループワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 活かせそうな本人の強み（ストレングス）をグループで共有します

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

記入の仕方

強み（ストレングス） →活かせそうな場面

発 表

1. 記入した氷山モデルの内容を発表します

記入例

課題となっている行動

作業中に自傷をする

(本人の特性)

- 1) 相手への関心が薄い
- 2) 相手から期待される行動を理解することが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 16) 段取りを適切に組むことが難しい
- 18) 今やることを自分で判断することが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 25) 聴覚の過敏（鈍麻）がある

(環境・状況)

人：支援者は言葉で指示を出している
物：作業の道具が準備されていない
場所：近くに水遊びができる場所がある
状況：今何をしたらいいかわかりにくい
状況：いつお出かけに行くのかわかりにくい

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える
- G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える

(本人の強み→活かせるような場面や状況)

- ・作業の机に座ることができる → ・やることを分かりやすくすれば座って作業ができないか
- ・同じマークを見ると重ねることができる → ・活動を伝えるときにマークを活用できないか
- ・キラキラするものが好き → ・好きな活動を楽しみに他の活動に取り組むことができないか

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、アセスメントに基づいた本人の障害特性を理解して、根拠のある支援を組み立てることが基本です。
2. アセスメントは、本人の障害特性だけではなく、環境や状況も含めて行うことが重要です。

手順書の作成

- アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）
- アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）

この時間で学ぶこと

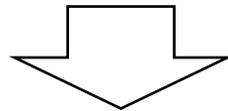
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法を学びます。

演習の流れ



手順書の作成

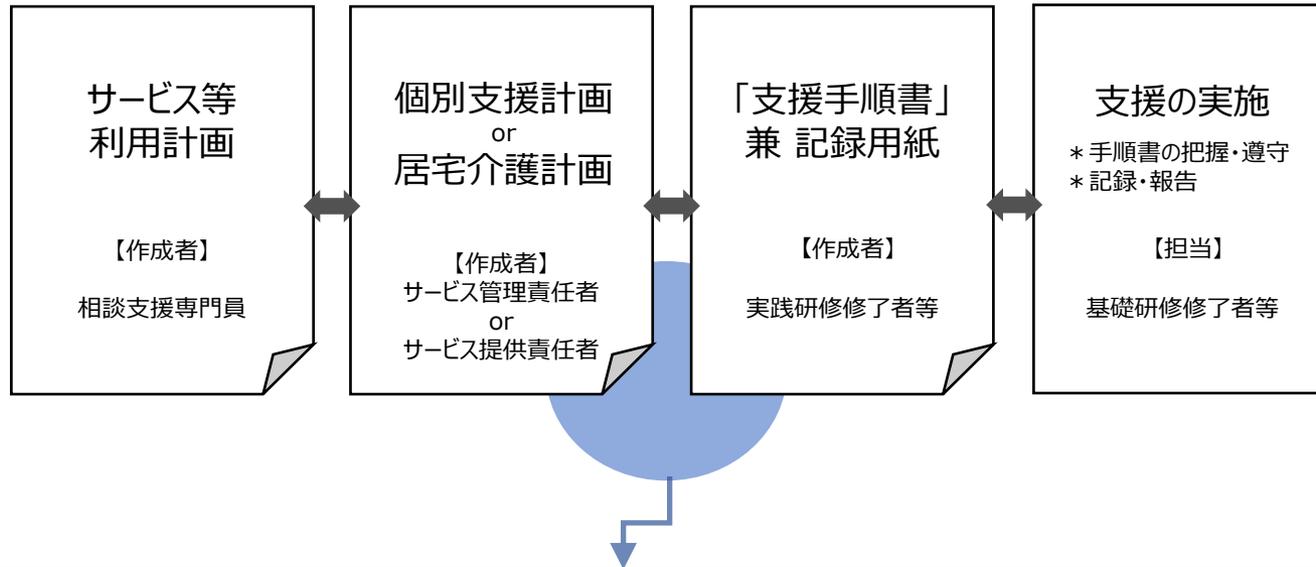
- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）



- i) 支援手順書について
- ii) 支援手順書の作成
 - 冰山モデルの完成
 - 活動の手順を決める

i) 支援手順書について

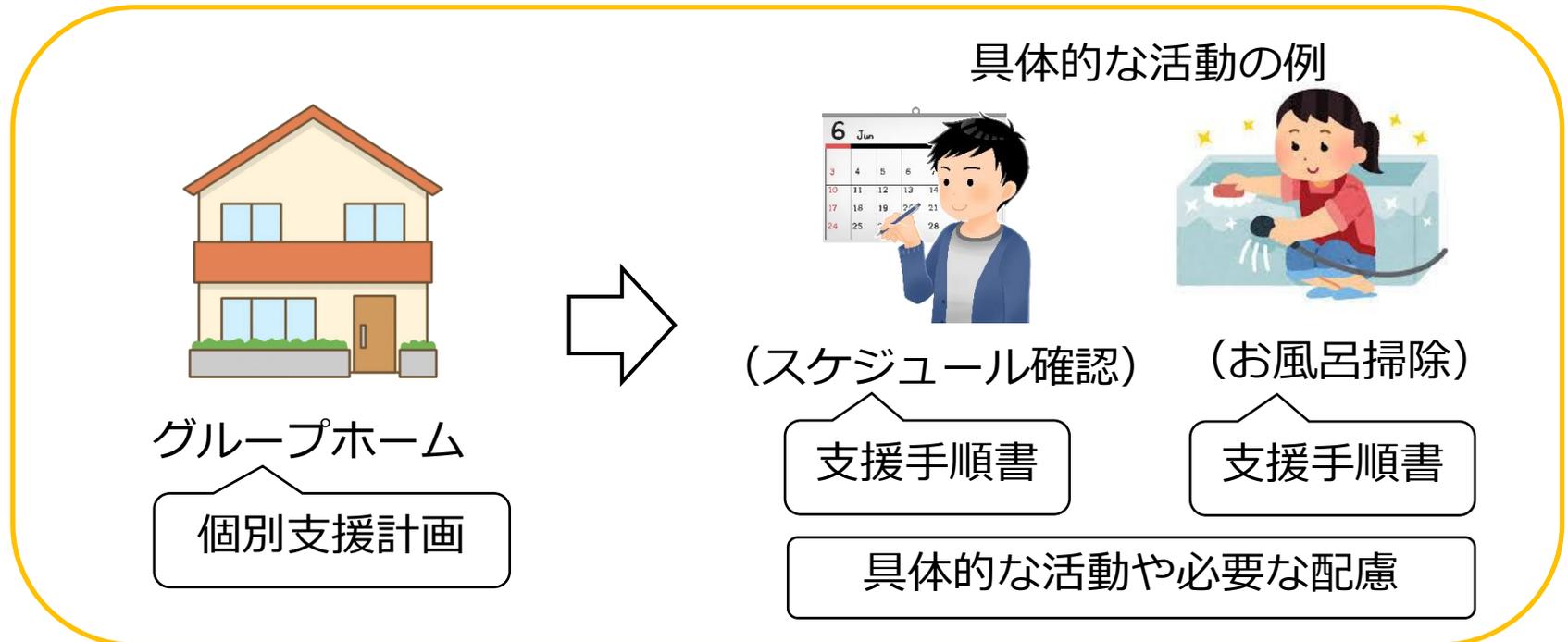
個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

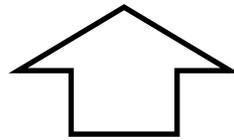
支援手順書

個別支援計画の内容から、具体的な活動とそのスケジュール・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援



現場で支援する人が統一して支援ができるように、根拠があり、分かりやすい支援手順書を作成することが大切

ii) 支援手順書の作成

※今回使用するシートは支援手順書の一例です。
支援手順書に決まった様式はありません。

○氷山モデルの完成

補助シートを使って作成した氷山モデルを完成させます。

必要なサポートに記載した「支援のアイデア」と「強み（ストレングス）」を活かした支援の具体的な内容を考えます。

グループワーク | 必要なサポートの具体的な内容を考える

1. 必要なサポートの具体的な内容をグループ
で話し合います

※氷山モデルシート（グループ用）に記入）

課題となっている行動
作業中に自傷をする

本人の特性

環境・状況

**「支援のアイデア」や「活か
させそうな強み」の内容を
根拠にして具体的なサポ
ートの方法を記入する。**

必要なサポート

支援のアイデア

具体的なサポート

本人の強み→活かさせそうな場面・状況

○活動の手順を決める

1. 場面を分ける

生活介護事業所での活動を、
場面ごとに分けてみます。

生活介護

送迎

着替え

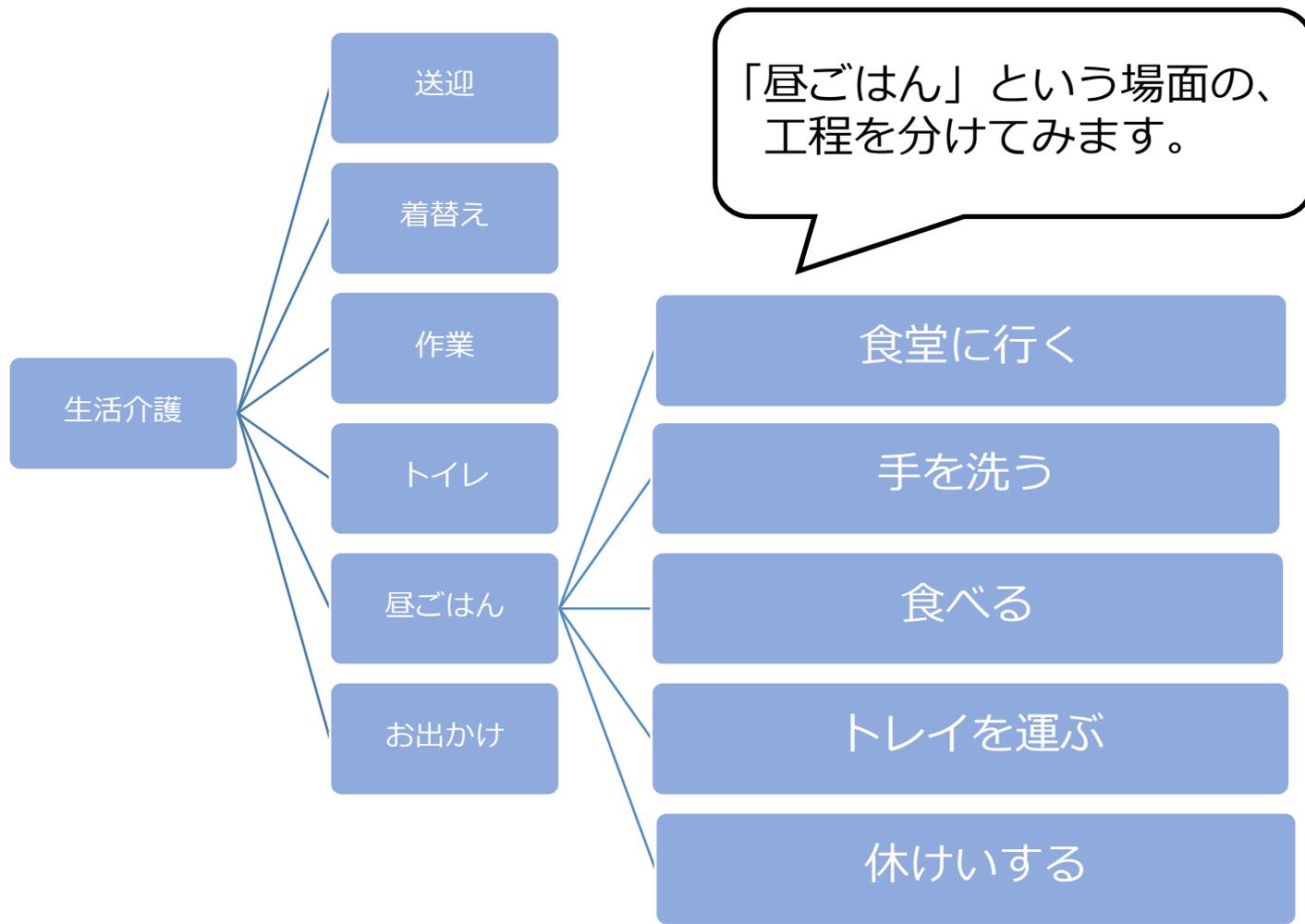
作業

トイレ

昼ごはん

お出かけ

2. 活動の工程を分ける



支援手順書に 落とし込む

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備					
食堂に行く					
手を洗う					
食べる					
トレイを選ぶ					
休けいする					

身近なことの工程を考えてみましょう

カップラーメンを作る工程
を考えてみましょう。

1.

2.

3.

4.

5.

.

.

.

個人ワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を考えます。
2. 支援手順書に工程を記入します。

グループワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を共有します。

工程の共有

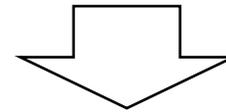
支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備					
移動					
作業①					
作業②					
作業③					
移動					
休憩					

手順書の作成

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）



ii) 支援手順書の作成

- 本人の動きを想定する
- 支援者の動きや必要な配慮を考える

個人ワーク | 活動の手順を考える

1. 工程ごとに本人の動きを想定します。
2. 支援手順書に本人の動きを記入します。

グループワーク | 活動の手順を決める

1. 場面ごとの想定される本人の動きをグループで共有します

※「支援手順書（グループ用）」に記入

○支援者の動きや必要な配慮を考える

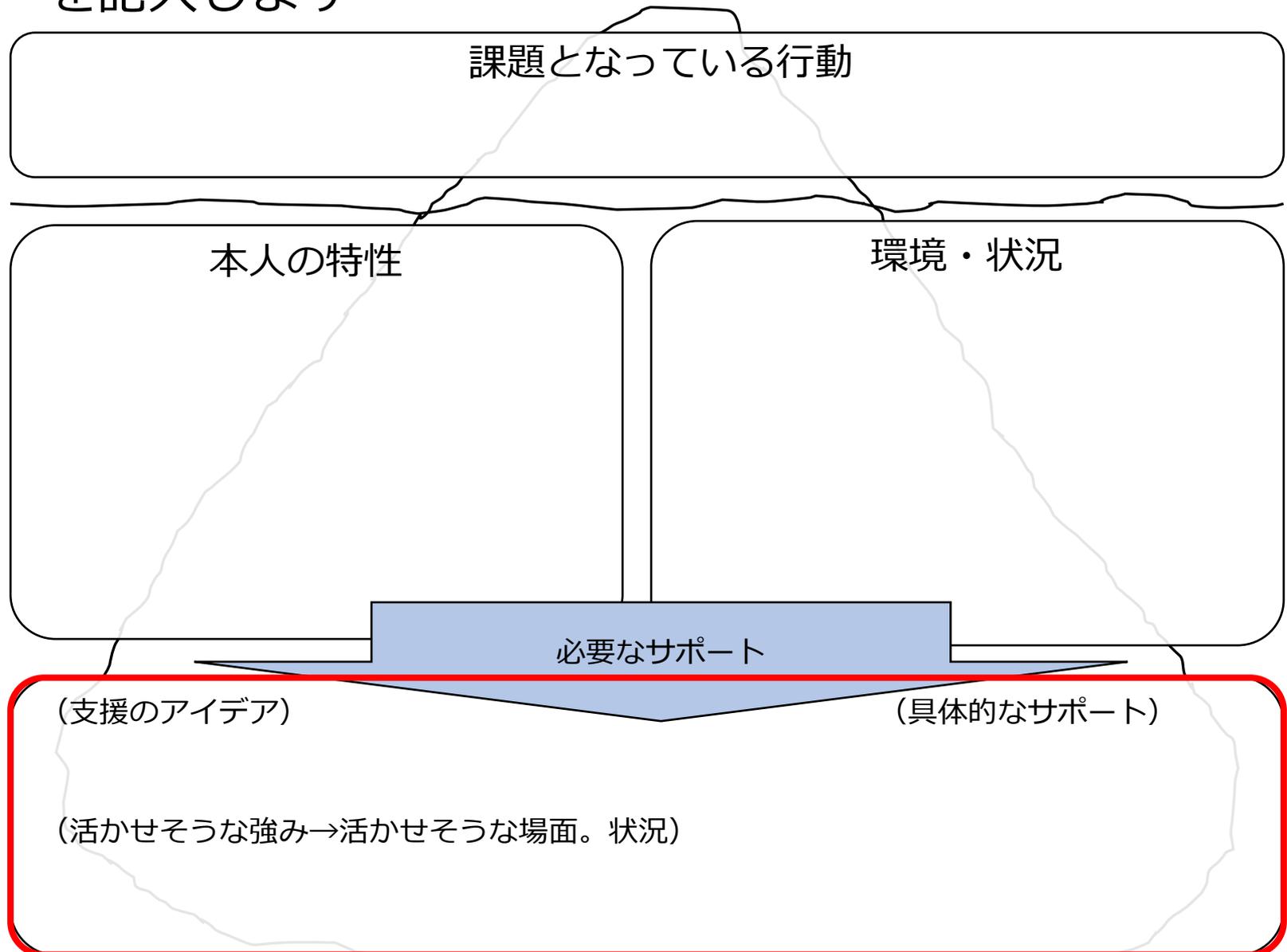
支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)		
事前準備		3			
		2			
1					

1. 当日までに準備しておくことを記入する。
2. 冰山モデルの「必要なサポート」欄を根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入する。
3. 当日の事前準備を記入する。

必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入します



個人ワーク | 支援者の動きや必要な配慮を考える

必要なサポートを根拠に

1. 当日までに準備しておくことを記入します
2. 支援者の動きや必要な配慮を記入します
3. 当日の事前準備を記入します

グループワーク | 支援者の動きや必要な配慮を考える

必要なサポートを根拠に

1. 当日までに準備しておくことをグループで共有します
2. 支援者の動きや必要な配慮をグループで共有します
3. 当日の事前準備をグループで共有します
(G用「支援手順書」に記入)

発 表

1. 活用した氷山モデルの必要なサポート
2. 当日までに準備しておくこと
3. 当日の事前準備の内容
4. 活動の手順と支援者の動きや必要な配慮

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、支援者が統一した支援をすることが重要。そのために支援手順書を作成する必要があります。
2. 支援手順書は、アセスメントを根拠に作成することが原則で、工程ごとに丁寧に組み立てます。